

I 総括報告

令和4年度の収支決算状況は、財政調整資金積立資産131,900千円を取り崩し実質的な資金収支差額は約176,050千円の赤字となり、令和3年度の資金収支差額より更に赤字幅が広がり、法人全体の事業経営は大変厳しい状況が続いている現状にあります。特に、介護保険事業の収入減が大きく、中でも通所介護事業の落込みが激しいことから介護保険事業収入の現状を分析し、また、障がい者福祉、児童福祉事業、更に、事業収入からの財源を投入している地域福祉の推進体制等も含めた見直し検討を行い、その結果、事業の効率化、人件費削減、収益性の高い事業への転換、利益率向上への取組等を視点に事業改善を進めました。

法人の組織運営については、社会福祉法人として円滑で強固な組織運営と組織体制の強化、また、地域福祉の推進、高齢者福祉、障がい者福祉、児童福祉の各事業の更なる充実に努め、同時に、鶴岡市社協の事業運営の基本となる「地域福祉活動計画、事業経営計画、発展・強化計画」それぞれに示した課題に計画的に取り組みました。

地域福祉の推進については、地域課題、生活課題が複雑化、深刻化している状況のなかで、個別支援（見守り、生活困窮、ひきこもり、高齢者・障がい者）と地域支援（地域支え合いプラン）に取り組み、特に鶴岡市委託事業である重層的支援体制整備事業移行準備事業の取組を通じて地域福祉推進の新たな展開を図りました。

新型コロナウイルス感染症については、令和4年度も継続して感染予防対策を進めながら事業継続に努めました。令和4年度の感染状況としては、職員の感染者が236人、濃厚接触者が174人を数え職員全体の51.4%となり、また、感染の影響で事業を停止した日数が177日で、事業の休業に伴う減収が16,599千円と事業経営的にも大きな影響を受けました。

重点事業

(1) 法人運営の充実・強化

厳しい事業経営の状況を踏まえ、事業全体の方向性を検討するプロジェクトチームを設置し、具体的な対応策、改善等を議論しながら令和5年度につなげました。

総務課、職員厚生課が所管する「発展・強化計画（第3期）」（2年次）に基づき、組織運営と組織体制の強化や組織統治（ガバナンス）、労務管理体制の強化に継続して取り組み、また、本部事務局移転整備については移転改修工事、事務事業を計画的に進めました。

(2) 地域福祉活動の推進

鶴岡市の「地域福祉計画」と連動し、地域福祉活動計画「おだがいさまのまちづくり計画2020」（2年次）に基づいた地域福祉活動、並びに各福祉センターにおける「地域支え合いプラン」に基づいた地域福祉活動の支援に努め、また、地域福祉ワーカーにおけるコミュニテ

ィソーシャルワーク¹実践の基盤づくりを進めました。

事業収入からの財源を投入している地域福祉の推進については、厳しい事業経営状況から推進体制の見直し検討を踏まえ福祉センター長の兼務配置を行いました。令和 5 年度も継続して地域福祉推進体制の検討を進めます。

(3) 生活支援事業の推進

判断能力に不安がある方の福祉サービス利用や日常的な金銭管理、成年後見等の支援に努め、同時に、権利擁護に関わる総合的な支援のあり方については、鶴岡市から示された成年後見制度利用促進の計画事項を基に、社協の役割、機能について検討しました。

また、既存の制度では支えきれない方に対する新たな生活支援サービスについては、関係機関等への調査、聴き取りを行い具体的な内容の検討を進めました。

緊急小口資金拡充支援資金貸付に継続して取り組み、更に貸付に伴う償還事務手続、償還免除申請等を進めながら借受世帯の状況確認に努めました。

(4) 相談支援事業の推進

鶴岡市委託事業の「地域包括支援センター」「鶴岡市障害者相談支援センター」並びに「鶴岡地域生活自立支援センター」それぞれが関係機関との連携を図り、専門相談窓口として機能の充実に努めました。また、地域福祉課、各福祉センターと連携し、地域課題、生活課題が複雑化、深刻化している状況のなかで個別支援と地域支援、更に重層的支援体制整備事業移行準備事業に取り組みました。

(5) 高齢者福祉、障がい者福祉事業の充実

事業推進課が所管する「第三期鶴岡市社協事業経営計画」（2 年次）に示された、基本的な視点と重点課題に基づいた取組を計画的に進めました。

介護保険事業を中心とした各事業の現状把握、経営分析を基にしながら、事業の統合、定員見直し、収益性の高い事業への転換等具体的な対応策を講じ事業収支の改善に努めました。

継続して新型コロナウイルス感染症予防対策に努めるとともに、利用者、職員に新型コロナウイルス感染症の陽性が確認された場合は、対応マニュアルに基づき当該事業の休止対応を行うなど集団感染の発生防止に努めました。

(6) 児童福祉事業の充実

総務課が担当する児童福祉事業については、「第三期鶴岡市社協事業経営計画」（2 年次）に示された、重点課題に基づいた取組を進める予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大

¹ コミュニティソーシャルワーク：援助を個別化するだけでなく、地域（社会）共通の課題と捉え、個人の援助とそれを支える地域（社会）の活動への支援を同時並行的に働きかけていく活動。

への対応の影響を受けて計画どおり進めることができませんでした。

各支援員の質の向上や事業間の連携強化を図り、更に各事業の経営分析を基に定員の見直し、適正な人員配置を進め収支改善に努めました。また、今後、保育園の統合についての検討を進めることとしました。

継続して新型コロナウイルス感染症対策に努めるとともに、利用者、職員に新型コロナウイルス感染症が確認された場合は、対応マニュアルに基づき当該事業の休止対応を行うなど集団感染の発生防止に努めました。

学童保育所の入所希望児童の増加への対応として、鶴岡市担当課と連携しながら当該施設の増築を計画的に進めました。

Ⅱ 法人運営

【令和4年度役員】

	職名	氏名
R4. 4. 1	会長	山木知也
	副会長	板垣壯典 (R4. 12. 10 まで)、阿部恵子
	常務理事	伊藤周一
	理事	畑山孝一、阿部真一、渡邊健 (R5. 3. 31 まで)、渋谷俊美、原田みゆき、佐藤妙子、伊藤秀紀、武田憲夫、阿部英子、平藤久喜、伊藤彦市、澤邊みさ子
	監事	相澤康夫、佐藤満也、原田洋
	評議員	佐々木榮三、鈴木淳士、櫻井修治、土岐純一、沓澤実、小林幸一 (R5. 3. 31 まで)、佐藤寿一 (R5. 3. 31 まで)、山中町子 (R5. 1. 12 まで)、半澤正昭 (R4. 11. 30 まで)、榎本トヨ (R4. 11. 30 まで)、井上実 (R4. 11. 30 まで)、難波久男 (R4. 11. 30 まで)、本間健一、佐藤清一 (R5. 3. 31 まで)、佐藤きく子、佐藤こず恵、石川一郎、佐藤保政、小南孝子 (R4. 6. 28 まで)、佐藤満子、松田修一、小松金悦郎 (R4. 6. 28 まで)、岩浪武司 (R5. 1. 15 まで)、千田洋子、橋本廣美、五十嵐武、加藤由喜子、平藤博巳、菅原しづ子、五十嵐庄一
R4. 4. 26	副会長	阿部真一
R4. 6. 13	評議員	五十嵐満、工藤幸雄 (R5. 3. 31 まで)、佐藤玲子 (R5. 3. 31 まで)、奥田満哉 (R5. 3. 31 まで)、大川厚子
R4. 12. 19	評議員	五十嵐俊道、榎本光男、五十嵐誠一、大瀧博勝、日向常浩
R5. 1. 11	理事	阿部和廣
R5. 2. 16	副会長	阿部和廣
R5. 2. 17	評議員	難波和博、中嶋悦

1. 理事会・評議員会開催報告

第1回理事会 令和4年4月26日（火）

【報告】

- 報告1 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会の事業推進について
- 報告2 指定就労継続支援事業（B型）事業所・指定生活介護事業所もみじが丘運営規程の一部改正について
- 報告3 介護予防・日常生活支援総合事業鶴岡市通所介護相当サービス事業所なえづ老人デイサービスセンター運営規程の一部改正について
- 報告4 介護予防・日常生活支援総合事業鶴岡市通所介護相当サービス事業所温海デイサービスセンター愛寿園運営規程の一部改正について
- 報告5 令和3年度指定居宅介護支援事業所運営基準改正に伴う関係事業所（居宅介護支援）運営規程の一部改正について
- 報告6 令和3年度指定通所介護事業所運営基準改正に伴う関係事業所（通所介護）運営規程の一部改正について
- 報告7 令和3年度介護予防・日常生活支援総合事業運営基準改正に伴う関係事業所（従前相当）運営規程の一部改正について
- 報告8 令和3年度指定認知症対応型通所介護事業所運営基準改正に伴う関係事業所（認知症対応型通所介護）運営規程の一部改正について
- 報告9 令和3年度介護予防・日常生活支援総合事業運営基準改正に伴う関係事業所（通所型サービスA）運営規程の一部改正について
- 報告10 令和3年度運営基準改正に伴うくしびき高齢者生活福祉センター運営規程の一部改正について
- 報告11 令和3年度ユニット型指定介護老人福祉施設運営基準改正に伴うユニット型指定介護老人福祉施設特別養護老人ホームおおやま運営規程の一部改正について
- 報告12 令和3年度ユニット型指定短期入所生活介護運営基準改正に伴うユニット型指定短期入所生活介護（ユニット型指定介護予防短期入所生活介護）事業所短期入所センターおおやま運営規程の一部改正について
- 報告13 令和3年度基準該当短期入所生活介護運営基準改正に伴う基準該当短期入所生活介護（基準該当介護予防短期入所生活介護）事業所短期入所センターはちもり運営規程の一部改正について
- 報告14 令和3年度指定認知症対応型共同生活介護運営基準改正に伴う指定認知症対応型共同生活介護（指定介護予防認知症対応型共同生活介護）事業所グループホームはちもり運営規程の一部改正について
- 報告15 令和3年度指定訪問介護事業所運営基準改正に伴う指定訪問介護事業所鶴岡市社会福祉協議会訪問介護事業所運営規程の一部改正について

- 報告 1 6 令和 3 年度介護予防・日常生活支援総合事業運営基準改正に伴う介護予防・日常生活支援総合事業鶴岡市訪問介護相当サービス事業所鶴岡市社会福祉協議会訪問介護事業所運営規程の一部改正について
- 報告 1 7 令和 3 年度指定居宅介護・指定重度訪問介護事業所運営基準改正に伴う指定居宅介護・指定重度訪問介護事業所鶴岡市社会福祉協議会訪問介護事業所運営規程の一部改正について
- 報告 1 8 令和 3 年度指定生活介護事業所運営基準改正に伴う指定生活介護事業所なえづ生活介護事業所運営規程の一部改正について
- 報告 1 9 令和 3 年度指定生活介護事業所・指定自立訓練（生活訓練）事業所運営基準改正に伴う指定生活介護事業所・指定自立訓練（生活訓練）事業所鶴岡市ゆうあいプラザ生活介護・自立訓練（生活訓練）事業所運営規程の一部改正について
- 報告 2 0 令和 3 年度指定就労継続支援事業（B 型）事業所運営基準改正に伴う指定就労継続支援事業（B 型）事業所鶴岡市ゆうあいプラザ運営規程の一部改正について
- 報告 2 1 令和 3 年度指定就労継続支援事業（B 型）事業所・指定生活介護事業所運営基準改正に伴う指定就労継続支援事業（B 型）事業所・指定生活介護事業所もみじが丘運営規程の一部改正について
- 報告 2 2 令和 3 年度指定短期入所事業所運営基準改正に伴う関係事業所（障害短期入所）運営規程の一部改正について
- 報告 2 3 令和 3 年度指定共同生活援助事業所運営基準改正に伴う指定共同生活援助事業所温海グループホーム茶ヤ町荘運営規程の一部改正について
- 報告 2 4 令和 3 年度指定特定相談支援事業者指定一般相談支援事業者運営基準改正に伴う指定特定相談支援事業者指定一般相談支援事業者鶴岡市障害者相談支援センター運営規程の一部改正について
- 報告 2 5 令和 3 年度指定障害児相談支援事業者運営基準改正に伴う指定障害児相談支援事業者鶴岡市障害者相談支援センター運営規程の一部改正について
- 報告 2 6 令和 3 年度運営基準改正に伴う関係事業所（地域包括支援）運営規程の一部改正について
- 報告 2 7 令和 3 年度指定介護予防支援事業所運営基準改正に伴う関係事業所（地域包括介護予防）運営規程の一部改正について
- 報告 2 8 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会虐待防止実施要綱の制定について
- 報告 2 9 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会身体拘束適正化実施要綱の制定について

【議事】

- 議第 1 号 鶴岡市社会福祉協議会事務局移転工事請負契約の締結について
- 議第 2 号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会評議員選任委員の選任について

議第3号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会副会長の選定について

第2回理事会 令和4年6月10日（金）

【報告】

- 報告1 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会の事業推進について
報告2 指定共同生活援助事業所温海グループホーム茶ヤ町荘運営規程の一部改正について

【議事】

- 議第4号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会定款施行細則の一部改正について
議第5号 基本財産の処分について
議第6号 基本財産の取得について
議第7号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会緊急小口資金拡充支援資金貸付規程の一部改正について
議第8号 令和4年度社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会収入支出補正予算について
議第9号 令和3年度社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会事業報告の承認について
議第10号 令和3年度社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会収入支出決算の承認について
議第11号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会令和4年度第1回評議員会の開催について
議第12号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会評議員選任候補者の選出について
議第13号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会評議員選任委員会の開催について
議第14号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会評議員選任委員の選任について

第3回理事会 令和4年9月16日（金）

【報告】

- 報告1 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会の事業推進について
報告2 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会資金収支状況について

【議事】

- 議第15号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会準職員の就業及び給与等に関する規程の一部改正について
議第16号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会職員育児休業・介護休業等に関する規程の全部改正について
議第17号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会緊急小口資金拡充支援資金貸付規程の一部改正について
議第18号 継続による指定管理者の指定申請について

第4回理事会 令和4年12月9日（金）

【報告】

- 報告1 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会の事業推進について
- 報告2 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会資金収支状況について
- 報告3 継続による指定管理者の内定について
- 報告4 指定通所介護事業所くしびきデイサービスセンター運営規程の一部改正について
- 報告5 介護予防・日常生活支援総合事業鶴岡市通所介護相当サービス事業所くしびきデイサービスセンター運営規程の一部改正について

【議事】

- 議第19号 鶴岡市社会福祉協議会事務局移転工事請負契約の一部変更について
- 議第20号 指定通所介護事業（介護予防・日常生活支援総合事業鶴岡市通所介護相当サービス事業）の統合について
- 議第21号 介護予防・日常生活支援総合事業鶴岡市通所型サービスA事業所はつらつ元気まちトレ運営規程の制定について
- 議第22号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会理事の選任について
- 議第23号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会令和4年度第2回評議員会の開催について
- 議第24号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会評議員選任候補者の選出について
- 議第25号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会評議員選任委員会の開催について

第5回理事会 令和5年2月16日（木）

【報告】

- 報告1 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会の事業推進について
- 報告2 くしびき東部保育園運営規程の一部改正について

【議事】

- 議第26号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会公印管理規程の一部改正について
- 議第27号 指定居宅介護支援事業所居宅介護支援センターたかだて運営規程の廃止について
- 議第28号 指定通所介護事業所温海デイサービスセンター愛寿園運営規程の廃止について
- 議第29号 介護予防・日常生活支援総合事業鶴岡市通所介護相当サービス事業所温海デイサービスセンター愛寿園運営規程の廃止について
- 議第30号 基準該当短期入所生活介護（基準該当介護予防短期入所生活介護）事業所短期入所センターはちもり運営規程の廃止について
- 議第31号 指定短期入所事業所短期入所センターはちもり運営規程の廃止について

- 議第 3 2 号 指定認知症対応型共同生活介護（指定介護予防認知症対応型共同生活介護）事業所グループホームはちもりの定員変更について
- 議第 3 3 号 介護予防・日常生活支援総合事業鶴岡市通所型サービス A 事業所運営規程の廃止について
- 議第 3 4 号 指定居宅介護支援事業所の名称変更に係る関係事業所運営規程の一部改正について
- 議第 3 5 号 指定通所介護事業所の名称変更に係る関係事業所運営規程の一部改正について
- 議第 3 6 号 介護予防・日常生活支援総合事業鶴岡市通所介護相当サービス事業所の名称変更に係る関係事業所運営規程の一部改正について
- 議第 3 7 号 指定認知症対応型通所介護（指定介護予防認知症対応型通所介護）事業所の名称変更に係る関係事業所運営規程の一部改正について
- 議第 3 8 号 介護予防・日常生活支援総合事業鶴岡市通所型サービス A 事業所とよら老人デイサービスセンター運営規程の一部改正について
- 議第 3 9 号 指定生活介護事業所・指定自立訓練（生活訓練）事業所鶴岡市ゆうあいプラザわくわく生活介護・自立訓練（生活訓練）事業所運営規程の制定について
- 議第 4 0 号 指定生活介護事業所・指定自立訓練（生活訓練）事業所鶴岡市ゆうあいプラザ生活介護・自立訓練（生活訓練）事業所運営規程の一部改正について
- 議第 4 1 号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会組織機構等に関する規程の一部改正について
- 議第 4 2 号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会就業規則の一部改正について
- 議第 4 3 号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会安全衛生管理規程の全部改正について
- 議第 4 4 号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会評議員選任候補者の選出について
- 議第 4 5 号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会評議員選任委員会の開催について
- 議第 4 6 号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会副会長の選定について

第 6 回理事会 令和 5 年 3 月 1 7 日（金）

【報告】

- 報告 1 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会の事業推進について
- 報告 2 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会資金収支状況について
- 報告 3 指定通所介護事業所デイサービスセンターとよら運営規程の一部改正について
- 報告 4 介護予防・日常生活支援総合事業鶴岡市通所介護相当サービス事業所デイサービスセンターとよら運営規程の一部改正について
- 報告 5 制度改正に伴う関係事業所運営規程の一部改正について

【議事】

- 議第 4 7 号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会定款の一部改正について
- 議第 4 8 号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会経理規程の一部改正について
- 議第 4 9 号 通所介護事業所営業日変更に伴う関係事業所（通所介護）運営規程の一部改正について
- 議第 5 0 号 通所介護事業所営業日変更に伴う関係事業所（従前相当）運営規程の一部改正について
- 議第 5 1 号 通所介護事業所営業日変更に伴う関係事業所（認知症対応型通所介護）運営規程の一部改正について
- 議第 5 2 号 指定居宅介護支援事業所居宅介護支援センター愛寿園運営規程の一部改正について
- 議第 5 3 号 指定短期入所事業所短期入所センターおおやま運営規程の一部改正について
- 議第 5 4 号 令和 4 年度社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会収入支出補正予算について
- 議第 5 5 号 令和 5 年度社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会事業計画について
- 議第 5 6 号 令和 5 年度社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会収入支出予算について
- 議第 5 7 号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会令和 4 年度第 3 回評議員会の開催について

第 7 回理事会 令和 5 年 3 月 2 8 日（火）（決議の省略）

【議事】

- 議第 5 8 号 鶴岡市社会福祉協議会事務局次長の選任について
- 議第 5 9 号 鶴岡市社会福祉協議会事務局次長の選任について
- 議第 6 0 号 鶴岡市社会福祉協議会参事の選任について
- 議第 6 1 号 鶴岡市社会福祉協議会参事の選任について
- 議第 6 2 号 鶴岡市社会福祉協議会参事の選任について

第 1 回評議員会 令和 4 年 6 月 2 7 日（月）

【報告】

- 報告 1 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会副会長の選定結果について
- 報告 2 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会の事業推進について
- 報告 3 鶴岡市社会福祉協議会事務局移転工事請負契約の締結について
- 報告 4 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会緊急小口資金拡充支援資金貸付規程の一部改正について
- 報告 5 令和 3 年度社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会収入支出決算について

【議事】

- 議第1号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会定款施行細則の一部改正について
- 議第2号 基本財産の処分について
- 議第3号 基本財産の取得について
- 議第4号 令和4年度社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会収入支出補正予算について
- 議第5号 令和3年度社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会事業報告の承認について

第2回評議員会 令和5年1月11日（水）

【報告】

- 報告1 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会の事業推進について
- 報告2 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会資金収支状況について
- 報告3 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会準職員の就業及び給与等に関する規程の一部改正について
- 報告4 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会職員育児休業・介護休業等に関する規程の全部改正について
- 報告5 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会緊急小口資金拡充支援資金貸付規程の一部改正について
- 報告6 継続による指定管理者の内定について
- 報告7 指定通所介護事業所くしびきデイサービスセンター運営規程の一部改正について
- 報告8 介護予防・日常生活支援総合事業鶴岡市通所介護相当サービス事業所くしびきデイサービスセンター運営規程の一部改正について
- 報告9 鶴岡市社会福祉協議会事務局移転工事請負契約の一部変更について
- 報告10 指定通所介護事業（介護予防・日常生活支援総合事業鶴岡市通所介護相当サービス事業）の統合について
- 報告11 介護予防・日常生活支援総合事業鶴岡市通所型サービスA事業所はつらつ元気まちトレ運営規程の制定について

【議事】

- 議第6号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会理事の選任について

第3回評議員会 令和5年3月27日（月）

【報告】

- 報告1 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会副会長の選定結果について
- 報告2 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会の事業推進について
- 報告3 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会資金収支状況について
- 報告4 くしびき東部保育園運営規程の一部改正について
- 報告5 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会公印管理規程の一部改正について

- 報告 6 指定居宅介護支援事業所居宅介護支援センターたかだて運営規程の廃止について
- 報告 7 指定通所介護事業所温海デイサービスセンター愛寿園運営規程の廃止について
- 報告 8 介護予防・日常生活支援総合事業鶴岡市通所介護相当サービス事業所温海デイサービスセンター愛寿園運営規程の廃止について
- 報告 9 基準該当短期入所生活介護（基準該当介護予防短期入所生活介護）事業所短期入所センターはちもり運営規程の廃止について
- 報告 1 0 指定短期入所事業所短期入所センターはちもり運営規程の廃止について
- 報告 1 1 指定認知症対応型共同生活介護（指定介護予防認知症対応型共同生活介護）事業所グループホームはちもりの定員変更について
- 報告 1 2 介護予防・日常生活支援総合事業鶴岡市通所型サービスA事業所運営規程の廃止について
- 報告 1 3 指定居宅介護支援事業所の名称変更に係る関係事業所運営規程の一部改正について
- 報告 1 4 指定通所介護事業所の名称変更に係る関係事業所運営規程の一部改正について
- 報告 1 5 介護予防・日常生活支援総合事業鶴岡市通所介護相当サービス事業所の名称変更に係る関係事業所運営規程の一部改正について
- 報告 1 6 指定認知症対応型通所介護（指定介護予防認知症対応型通所介護）事業所の名称変更に係る関係事業所運営規程の一部改正について
- 報告 1 7 介護予防・日常生活支援総合事業鶴岡市通所型サービスA事業所とようら老人デイサービスセンター運営規程の一部改正について
- 報告 1 8 指定生活介護事業所・指定自立訓練（生活訓練）事業所鶴岡市ゆうあいプラザわくわく生活介護・自立訓練（生活訓練）事業所運営規程の制定について
- 報告 1 9 指定生活介護事業所・指定自立訓練（生活訓練）事業所鶴岡市ゆうあいプラザ生活介護・自立訓練（生活訓練）事業所運営規程の一部改正について
- 報告 2 0 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会組織機構等に関する規程の一部改正について
- 報告 2 1 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会就業規則の一部改正について
- 報告 2 2 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会安全衛生管理規程の全部改正について
- 報告 2 3 指定通所介護事業所デイサービスセンターとようら運営規程の一部改正について
- 報告 2 4 介護予防・日常生活支援総合事業鶴岡市通所介護相当サービス事業所デイサービスセンターとようら運営規程の一部改正について
- 報告 2 5 制度改正に伴う関係事業所運営規程の一部改正について

- 報告 2 6 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会経理規程の一部改正について
- 報告 2 7 通所介護事業所営業日変更に伴う関係事業所（通所介護）運営規程の一部改正について
- 報告 2 8 通所介護事業所営業日変更に伴う関係事業所（従前相当）運営規程の一部改正について
- 報告 2 9 通所介護事業所営業日変更に伴う関係事業所（認知症対応型通所介護）運営規程の一部改正について
- 報告 3 0 指定居宅介護支援事業所居宅介護支援センター愛寿園運営規程の一部改正について
- 報告 3 1 指定短期入所事業所短期入所センターおおやま運営規程の一部改正について

【議事】

- 議第 7 号 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会定款の一部改正について
- 議第 8 号 令和 4 年度社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会収入支出補正予算について
- 議第 9 号 令和 5 年度社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会事業計画について
- 議第 1 0 号 令和 5 年度社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会収入支出予算について

2. 要綱等の制定及び一部改正

- 令和 4 年 4 月 1 日 ハラスメント指針の制定
- 8 月 2 4 日 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会契約職員の就業及び給与等に関する規程施行要綱の一部改正
- 8 月 3 1 日 処遇改善支援手当支給基準の一部改正
- 9 月 1 日 処遇改善支援手当支給基準の一部改正
- 1 0 月 1 日 特定処遇改善加算手当支給基準の一部改正
- 社会福祉法人鶴岡市社会福祉協議会契約職員の就業及び給与等に関する規程施行要綱の一部改正
- 令和 5 年 1 月 1 日 虐待防止に関する指針の制定
- 身体拘束適正化に関する指針の制定
- 3 月 1 日 特定処遇改善加算手当支給基準の一部改正
- 処遇改善支援手当支給基準の一部改正

3. 監査実施報告

第 1 回監査 令和 4 年 5 月 2 6 日（木）

【内容】 令和 3 年度事業報告及び決算等に係る監査

第 2 回監査 令和 4 年 8 月 1 6 日（火）

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。

第3回監査 令和4年11月25日（金）

【内容】 令和4年度半期（令和4年4月～令和4年9月期）監査

第4回監査 令和5年2月17日（金）

【内容】 施設（鶴岡市鶴岡西部児童館、鶴岡市ゆうあいプラザかたぐるま）訪問による
監査（令和4年4月～令和4年12月期）

4. 会計監査人による監査実施報告

期末監査 令和4年5月12日（木）～5月14日（土）

令和4年5月18日（水）～5月20日（金）

【内容】 令和3年度計算書類及び財産目録の監査

第1回期中監査 令和4年11月28日（月）～12月2日（金）

【内容】 監査（令和4年4月～令和4年9月期）、施設訪問（ふれあい／訪問介護事業
所／地域包括支援センターかたりあい）

第2回期中監査 令和5年3月6日（月）～3月10日（金）

【内容】 監査（令和4年10月～令和5年1月期）、施設訪問（地域福祉センターなえ
づ（訪問介護事業所なえづサテライト、地域包括支援センターなえづ含
む）／中央児童館）

5. 理事検討班実施状況

事業経営検討班 令和4年12月1日（木）

【内容】 1. 今後の事業展開について

地域福祉検討班 令和5年2月28日（火）

【内容】 1. 第3次地域福祉活動計画の進行管理について
2. 第3次地域福祉活動計画の事業推進に対する意見交換

6. 事業推進報告

令和4年4月 1日 辞令交付式（かたぐるま）
21日 事業経営会議（かたりあい）
22日 社協広報「おだがいさま」入札会（保健福祉センター）
指名業者：4社
落札者：鶴岡印刷㈱
落札金額：868,800円（税込955,680円）

鶴岡市社会福祉協議会事務局移転工事入札会
(保健福祉センター)

指名業者：18社

落札者：㈱マルゴ

落札金額：260,000,000円

(税込286,000,000円)

車両リースに係る入札会(訪問、送迎車両関係)(郵送入札)

指名業者：8社

落札者：オリックス自動車㈱山形支店

落札金額：10,050,000円(5年リース)

(税込10,839,000円、非課税車両1台含む)

※居宅介護支援センターたかだて、ふれあい、訪問介護事業所ふれ
あいサテライト、訪問介護事業所とようらサテライト、訪問介護
事業所おおやまサテライト、鶴岡市ゆうあいプラザかたぐるま、
鶴岡市障害者相談支援センター、地域包括支援センターかたりあ
い 8台分

- 26日 第1回理事会(保健福祉センター)
- 第1回事業経営計画全体会議(かたりあい)
- 28日 地域福祉部門 センター長・所長会議(保健福祉センター)
- 5月12日 会計監査人による期末監査①(～14日まで・鶴岡市ゆうあいプラザ
かたぐるま分館)
- 18日 会計監査人による期末監査②(～20日まで・鶴岡市ゆうあいプラザ
かたぐるま分館)
- 25日 福祉センター長会議(保健福祉センター)
- 26日 令和3年度事業報告及び決算等に係る監事監査(保健福祉センター)
- 30日 第1回日常生活自立支援事業 生活支援員会議(保健福祉センター)
- 6月 1日 三役会議(保健福祉センター)
- 6日 令和5年度職員採用試験募集開始(～7/8まで)
- 10日 第2回理事会(鶴岡市農村センター)
- 13日 第1回評議員選任委員会(保健福祉センター)
- 15日 鶴岡西部児童館運営委員会(鶴岡西部児童館)
- 23日 暁光児童館運営委員会(暁光児童館)
- 児童福祉施設に対する指導監査(大山児童館)
- 児童福祉施設に対する指導監査(鶴岡西部児童館)
- 27日 第1回評議員会(保健福祉センター)
- 介護職員初任者研修開講式(かたりあい/11名)
- 28日 児童福祉施設に対する指導監査(中央児童館)
- 29日 大山児童館運営委員会(大山児童館)

- 30日 鶴岡南部児童館運営委員会（鶴岡南部児童館）
 児童福祉施設に対する指導監査（暁光児童館）
 児童福祉施設に対する指導監査（鶴岡南部児童館）
- 7月 1日 学区・地区社会福祉協議会連絡委員会（保健福祉センター）
 4日 中央児童館運営委員会（中央児童館）
 7日 第1回法人後見運営委員会（保健福祉センター／13名）
 8日 鶴岡老人福祉センター運営委員会（鶴岡老人福祉センター）
 13日 福祉センター長会議（保健福祉センター）
 14日 藤島地域福祉委員会（藤島庁舎）
 15日 事業経営会議（かたりあい）
 21日 令和4年7月15日からの大雨による災害支援
 大崎市社会福祉協議会への支援
 ※災害時における相互応援に関する協定に基づくもの
 ・災害ボランティアセンターへの職員派遣 7/21～7/29
 派遣実人数6名 派遣延人数22名
 ・ボランティア活動 7/21、7/24 活動延人数13名
- 26日 温海地域福祉委員会（温海ふれあいセンター）
 31日 職員採用一次試験（在宅リモートで実施／11名）
- 8月10日 令和4年8月3日からの大雨による災害支援
 川西町社会福祉協議会への支援
 ※山形県社会福祉協議会による応援要請に基づくもの
 ・災害ボランティアセンターへの職員派遣 8/10～8/11、8/16～8/17
 派遣実人数4名 派遣延人数8名
 飯豊町社会福祉協議会への支援
 ・ボランティア活動 8/19 活動延人数10名
- 19日 車両リースに係る入札会（軽自動車関係）（郵送入札）
 指名業者：7社
 落札者：三菱HCキャピタルオートリース(株)東北支店
 落札金額：2,508,000円（5年リース）
 （税込2,758,800円）
 ※事業推進課、生活支援課 2台分
- 20日 職員採用二次試験（保健福祉センター／10名（うち1名は在宅リモートで実施））

- 24日 事務局移転空調設備追加工事のリース契約に係る入札会
(保健福祉センター)
指名業者：3社
落札者：フィデアリース(株)庄内支店
落札金額：25,620,000円(7年リース)
(税込28,182,000円)
- 30日 高齢者福祉センターおおよま照明器具LED化工事入札会
(高齢者福祉センターおおよま)
指名業者：5社
落札者：(有)マーケットクリエイト
落札金額：2,360,000円(税込2,596,000円)
- 9月 7日 三役会議(保健福祉センター)
14日 福祉センター長会議(保健福祉センター)
職場代表者会議(オンライン開催)
16日 第3回理事会(保健福祉センター)
介護職員初任者研修修了式(かたりあい/11名)
21日 地域密着型サービス事業者等運営指導
(居宅介護支援センターおおよま)
22日 火災保険更新に係る入札会(保健福祉センター)
指名業者：4社
落札者：(株)スマイル 淀川保険サービス
落札金額：10,153,500円(保険期間5年)
(非課税10,153,500円)
- ※たかだて、なえづ、かたりあい、はちもり、櫛引すこやかセンター、
愛寿園、もみじが丘、e-モッチ、くしびき東部保育園、くしびき西
部保育園、くしびき南部保育園、藤島老人福祉センター、羽黒老人
福祉センター、櫛引老人福祉センター、鶴岡老人福祉センター
15施設分
- 27日 第1回社会福祉法人連携における公益的な取組にかかる連絡会
(保健福祉センター)
28日 地域密着型サービス事業者等運営指導
(居宅介護支援センターふれあい)
29日 児童福祉施設に対する指導監査(くしびき西部保育園)
- 10月 12日 表彰審査委員会(社協事務局会議室)
地域密着型サービス事業者等運営指導(なえづ居宅介護支援センター)
13日 事業経営会議(かたりあい)
21日 朝日地域福祉委員会(健康の里ふっくら)
22日 職員内部登用一次試験(保健福祉センター/3名)

- 26日 羽黒地域福祉委員会（羽黒コミュニティセンター）
- 27日 児童福祉施設に対する指導監査
（くしびき南部保育園、くしびき保育園）
- 11月10日 社協表彰状贈呈式（保健福祉センター）
- 16日 福祉センター長会議（保健福祉センター）
- 17日 第2回日常生活自立支援事業 生活支援員会議（保健福祉センター）
- 25日 三役会議（保健福祉センター）
令和4年度半期決算に係る監事監査（保健福祉センター）
- 28日 会計監査人による期中監査（～12月2日まで）
（鶴岡市ゆうあいプラザかたぐるま分館・ふれあい／訪問介護事業所
／地域包括支援センターかたりあい）
- 29日 中央児童館運営委員会（中央児童館）
児童福祉施設に対する指導監査（くしびき東部保育園）
- 12月 1日 理事検討班会議（事業経営検討班／保健福祉センター）
- 2日 大山児童館運営委員会（大山児童館）
- 6日 鶴岡市社協安全運転研修会（保健福祉センター／35名）
無期労働契約説明会
（保健福祉センター／月給制契約職員対象7名）
- 7日 職員内部登用二次試験（保健福祉センター／2名）
無期労働契約説明会
（保健福祉センター／時間給制契約職員対象16名）
- 8日 鶴岡西部児童館運営委員会（鶴岡西部児童館）
- 9日 第4回理事会（保健福祉センター）
朝日地域福祉委員会（中央地区コミュニティセンター）
- 13日 歳末たすけあい募金配分委員会（第三学区コミュニティセンター）
- 14日 鶴岡南部児童館運営委員会（鶴岡南部児童館）
- 15日 事業経営会議（かたりあい）
- 19日 第2回評議員選任委員会（保健福祉センター）
- 20日 本部事務局移転に伴う物品購入入札会（保健福祉センター）
指名業者：3社
落札者：ツルカンシステム㈱
落札金額：10,260,000円
（税込11,286,000円）
- 22日 暘光児童館運営委員会（暘光児童館）
- 23日 櫛引地域福祉委員会（櫛引老人福祉センター）
- 1月11日 第2回評議員会（保健福祉センター）
福祉センター長会議（保健福祉センター）

- 1 2 日 櫛引すこやかセンター 2 階空調設備更新工事に係る入札会
(保健福祉センター)
指名業者：5 社
落札者：(株)渡会電気土木
落札金額：3,250,000 円
(税込 3,575,000 円)
- 1 8 日 地域密着型サービス事業者等運営指導 (グループホームはちもり、短期入所センターはちもり、老人デイサービスセンターはちもり)
- 3 1 日 学区・地区社協役員、コーディネーター等情報交換会 (出羽庄内国際村)
- 2 月 8 日 三役会議 (保健福祉センター)
- 1 6 日 第 5 回理事会 (荘銀タクト鶴岡)
- 1 7 日 第 3 回評議員選任委員会 (保健福祉センター)
監事監査 (令和 4 年 4 月～1 2 月期・鶴岡西部児童館／鶴岡市ゆうあいプラザかたぐるま)
- 2 0 日 第 2 回法人後見運営委員会 (保健福祉センター／1 1 名)
- 2 1 日 温海地域福祉委員会 (温海庁舎)
- 2 8 日 理事検討班会議 (地域福祉検討班／保健福祉センター)
社協本部事務局移転工事完成検査
- 3 月 2 日 藤島地域福祉委員会 (藤島庁舎)
第 2 回社会福祉法人連携における公益的な取組にかかる連絡会
(保健福祉センター)
- 6 日 会計監査人による期中監査 (～1 0 日まで)
(鶴岡市社協新本部事務局・地域福祉センターなえづ (訪問介護事業所なえづサテライト、地域包括支援センターなえづ含む) / 中央児童館)
- 8 日 三役会議 (保健福祉センター)
福祉センター長会議 (保健福祉センター)
- 9 日 事業経営会議 (かたりあい)
- 1 4 日 職場代表者会議 (オンライン開催)
- 1 5 日 第 2 回事業経営計画全体会議 (かたりあい)
- 1 7 日 第 6 回理事会 (鶴岡市社協新本部事務局)
- 2 2 日 羽黒地域福祉委員会 (羽黒コミュニティセンター)
- 2 3 日 鶴岡市社会福祉協議会本部事務局清掃業務委託に係る入札会
指名業者：3 社
落札者：(株)庄交コーポレーション 庄交クリーン
落札金額：987,120 円
(税込 1,085,832 円)
- 2 7 日 第 3 回評議員会 (鶴岡市社協新本部事務局)

- 28日 第7回理事会（決議の省略）
- 31日 退職辞令交付式（保健福祉センター）
 高齢者福祉センターおおやま一般廃棄物及び産業廃棄物収集運搬業務入札会（高齢者福祉センターおおやま）
 指名業社：3社
 落札者：(有)大滝商店
 落札金額：2,271,000円
 （税込2,498,100円）
 高齢者福祉センターおおやま防火対象物点検業務及び消防設備等点検業務入札会（高齢者福祉センターおおやま）
 指名業者：3社
 落札者：山形ニッタン(株)庄内支社
 落札金額：974,000円
 （税込1,071,400円）

（令和5年度）

- 4月 1日 鶴岡市社協本部事務局移転
 3日 辞令交付式（本部事務局）
- 20日 車両リースに係る入札会（送迎車両関係）（郵送入札）
 指名業者：7社
 落札者：(株)トヨタレンタリース山形
 落札金額：2,838,000円（5年リース）
 （税込3,121,800円）
 ※鶴岡市ゆうあいプラザかたぐるま 1台分
 事業経営会議（本部事務局）
- 24日 社協広報紙「おだがいさま」発行に係る印刷製本業務委託入札会（本部事務局）
 指名業者：4社
 落札者：鶴岡印刷(株)
 落札金額：1,077,000円（税込1,184,700円）
 地域福祉部門センター長・所長合同会議（本部事務局）
- 26日 車両リースに係る入札会（軽自動車関係）（郵送入札）
 指名業者：7社
 落札者：(株)トヨタレンタリース山形
 落札金額：3,618,000円（5年リース）
 （税込3,979,800円）
 ※居宅介護支援センターなえづ、訪問介護事業所とようらサテライト、訪問介護事業所ふれあいサテライト 3台分
 学区・地区社会福祉協議会連絡委員会幹事会（保健福祉センター）

- 27日 第1回事業経営計画全体会議（本部事務局）
- 28日 第1回日常生活自立支援事業 生活支援員会議（保健福祉センター）
- 5月11日 会計監査人による期末監査①（～13日まで・本部事務局）
- 17日 会計監査人による期末監査②（～19日まで・本部事務局）
- 18日 学区・地区社会福祉協議会連絡委員会（保健福祉センター）
- 24日 複合機の新規リース及び保守契約に係る入札会（本部事務局）
 指名業者：3社
 落札者：(株)鶴岡電子計算センター
 落札金額：2,998,800円（5年リース）
 （税込3,298,680円）
 ※鶴岡西部児童館、鶴岡南部児童館 2施設分
- 25日 令和4年度事業報告及び決算等に係る監事監査（本部事務局）
- 31日 三役会議（本部事務局）

7. 広報「おだがいさま」発行状況

- 第99号 4月1日発行
- 第100号 6月1日発行
- 第101号 8月1日発行
- 第102号 10月1日発行
- 第103号 12月1日発行
- 第104号 2月1日発行

Ⅲ 組織運営

(1) 社会福祉法人としての適正な運営

法人の内部統制の強化に積極的に取り組み、適正な運営に努めました。

監事及び会計監査人の指摘事項や指導内容については、迅速かつ適切に対応することで、健全な法人運営の推進を図りました。

新型コロナウイルス感染症の影響で一部事業の休止や縮小運営を余儀なくされたものの、迅速な対応に努めるとともに、事業所間の情報共有体制の強化や関係機関との連携を密にすることにより、混乱を最小限に抑え事業運営することができました。

(2) 健全経営と経営基盤の強化

法人全体の経営状況が大変厳しい状況となっていることから、経営基盤の安定と強化を図り持続可能な事業展開を進めるため、プロジェクトチーム（事務局長、総務課、職員厚生課、事業推進課から選出された職員）を設置し対策を検討しました。

特に業績不振が著しい通所介護事業等の介護保険サービス事業については、早急な対応が求められることから、事業分析を基に、事業の統合や人員配置の見直しを進めました。

(3) 本部事務局移転整備の計画的進行

本部事務局移転整備については、令和4年4月に建物改修工事を発注し、令和5年2月末までの工期で工事を進め、予定通り完成しました。

鶴岡市総合保健福祉センター（にこ♥ふる）に残る市民サービス部門（地域福祉課、生活支援課、鶴岡市ボランティアセンター、鶴岡市障害者相談支援センター）の調整等についても、市関係課と協議を行いながら計画的に実施しました。

(4) 労務管理体制の強化と職員処遇改善への取組

勤怠管理システムについては、予定していた事業所への導入を完了しました。社会保険と雇用保険関係の電子申請への移行は、効率的な運用に繋がるよう段階的な導入を進めました。

職員の処遇改善については、最低賃金の引き上げに伴い契約職員等の給料表の見直しを実施したものの、財政状況が厳しい現状から全職員の処遇改善には至りませんでした。

(5) 人材確保と人材育成の推進

人材確保については、ホームページの採用情報欄をリニューアルし、求人が知りたい情報を効果的に発信することができました。厳しい財政状況の中ではありますが、一般採用試験で4人を採用し、若い人やスキルのある人を採用して将来を見据えた人材の確保を図りました。

人財育成については、新型コロナウイルス感染症の影響もあり階層別研修は1回の開催となりました。法人の各種教育・研修のあり方については、事業経営計画と連動した体系的な研修について関係課と協議を進めました。

(6) 「発展・強化計画（第3期）」の推進

第3期計画の実施スケジュールに基づいた取組を進めるとともに、計画の進行管理を行い、効果的な計画の推進を図りました。

< 会員・会費の状況 >

地域	会員区分		30年度	31(R1)年度	R2年度	R3年度	R4年度
鶴岡	一般会員（世帯）		27,169	26,922	27,883	27,850	26,862
	賛助会員	個人	818	832	851	843	805
		事業所	431	414	404	394	387
	会費額		16,072,650	15,945,630	15,913,800	15,731,140	15,504,175
藤島	一般会員（世帯）		2,642	2,572	2,597	2,613	2,584
	賛助会員	個人	3	2	3	3	3
		事業所	37	28	22	23	22
	会費額		1,442,300	1,390,700	1,382,000	1,392,000	1,376,000
羽黒	一般会員（世帯）		2,020	2,037	2,021	2,025	2,070
	賛助会員	個人	3	3	3	3	2
		事業所	13	24	22	23	22
	会費額		1,062,500	1,097,500	1,079,500	1,086,500	1,107,000
櫛引	一般会員（世帯）		1,811	1,816	1,815	1,819	1,816
	賛助会員	個人	133	132	132	132	120
	会費額		1,038,500	1,040,000	1,039,500	1,043,500	1,029,000
朝日	一般会員（世帯）		1,123	1,102	1,083	1,081	1,063
	賛助会員	個人	4	4	4	3	3
		事業所	25	22	22	23	21
	会費額		669,500	638,000	632,600	636,500	620,500
温海	一般会員（世帯）		2,472	2,438	2,374	2,343	2,289
	賛助会員	個人	40	37	37	40	35
		事業所	60	59	58	57	56
	会費額		1,525,000	1,483,000	1,449,000	1,411,500	1,382,500
合計	一般会員（世帯）		37,237	36,887	37,773	37,731	36,684
	賛助会員	個人	1,001	1,010	1,030	1,024	968
		事業所	566	547	528	520	508
	会費額		21,810,450	21,594,830	21,496,400	21,301,140	21,019,175

<職員の状況>

(単位：人)

年 月	職員数	内 訳				
		正規	嘱託	契約 (常勤)	契約 (パート)	市派遣
H30.4	835	303	12	201	318	1
H31.4	831	310	19	201	300	1
R2.4	825	313	18	195	298	1
R3.4	821	311	23	186	300	1
R4.4	800	298	21	195	286	0
R4.5	796	296	21	193	286	0
R4.6	801	296	22	194	289	0
R4.7	801	294	22	195	290	0
R4.8	801	294	22	195	290	0
R4.9	800	295	22	195	288	0
R4.10	800	294	22	197	287	0
R4.11	799	294	22	195	288	0
R4.12	800	294	22	195	289	0
R5.1	797	294	22	195	286	0
R5.2	796	294	21	195	286	0
R5.3	798	294	21	196	287	0

<職員の給与の状況>

(令和5年3月31日現在)

項目 職位	平均年齢	平均 俸給月額	平均 勤続年数	人数	性別内訳	
					男	女
局長・次長・参事・課長級	55.5歳	300,075円	24.8年	4人	3人	1人
施設長・センター長級	55.0歳	288,570円	23.9年	19人	8人	11人
主査・係長級	50.7歳	250,279円	21.3年	25人	7人	18人
主任・副主任級	46.1歳	220,911円	15.9年	96人	27人	69人
主事級	38.6歳	199,445円	7.3年	150人	35人	115人
全 体	43.4歳	218,036円	12.6年	294人	80人	214人

<職員の資格取得状況> (令和5年3月31日現在)

資 格	人数
社会福祉士	49人
精神保健福祉士	7人
保健師	7人
看護師（正看・准看）	65人
理学療法士	4人
作業療法士	2人
介護支援専門員	100人
介護福祉士	270人
介護職員初任者研修（旧ヘルパー2級含む）	291人
保育士	115人

※重複あり

<職員採用の状況>

正規職員採用試験

		R4年度	R3年度	R2年度	31(R1)年度	30年度
応募者数		18人	16人	20人	25人	35人
採用者数		10人	11人	16人	16人	18人
資 格	社会福祉士	0人	3人	2人	0人	0人
	介護福祉士	7人	3人	2人	5人	9人
	介護支援専門員	0人	1人	2人	1人	1人
	看護師（正・准）	1人	3人	1人	3人	2人
	その他	2人	1人	9人	7人	6人
退職者数		21人	19人	16人	14人	15人

<保有車両の状況>

(令和5年3月31日現在)

	バス	普通自動車	軽自動車	福祉車両	計
事務局	2台	4台	7台	3台	16台
福祉センター	3台	2台	2台	3台	10台
包括・支援センター	—	—	24台	—	24台
通所（高齢・障がい）	1台	2台	4台	41台	48台
入居施設 （特養・グループホーム）	—	1台	—	3台	4台
訪問介護	—	—	23台	—	23台
児童・保育	3台	—	1台	—	4台
合 計	9台	9台	61台	50台	129台

<災害援護金>

火災等の災害に見舞われた世帯に援護金を支給しました。

	R2 年度		R3 年度		R4 年度	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
鶴岡福祉センター	6 件	180,000 円	6 件	110,000 円	6 件	110,000 円
藤島福祉センター	1 件	10,000 円	0 件	0 円	0 件	0 円
羽黒福祉センター	1 件	10,000 円	0 件	0 円	0 件	0 円
櫛引福祉センター	0 件	0 円	0 件	0 円	0 件	0 円
朝日福祉センター	0 件	0 円	0 件	0 円	0 件	0 円
温海福祉センター	0 件	0 円	0 件	0 円	0 件	0 円
合計	8 件	200,000 円	6 件	110,000 円	6 件	110,000 円

<旅費等一時援護金>

旅費等に困窮し、目的地まで到達できない方に隣接市町村までの旅費等を支給しました。

(支給金額：隣接市町村までの旅費等)

	R2 年度		R3 年度		R4 年度	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
鶴岡福祉センター	14 件	20,440 円	11 件	20,690 円	4 件	5,360 円
温海福祉センター	0 件	0 円	0 件	0 円	0 件	0 円
合計	14 件	20,440 円	11 件	20,690 円	4 件	5,360 円

IV 事業運営

1. 地域福祉事業

(1) 総括

鶴岡市全域を対象とした第3次地域福祉活動計画「おだがいさまのまちづくり計画2020」（令和3年度～令和7年度）の2年目として、計画に基づき地域福祉活動の実践に努めました。また、学区・地区社会福祉協議会等や各福祉センターにおいては、それぞれの小地域福祉活動計画「地域支え合いプラン」（令和3年度～令和7年度）に基づき、地域特性に応じた住民主体の地域福祉活動を推進しました。

地域福祉課及び各福祉センターの地区担当職員を地域福祉ワーカーとして位置づけ、民生委員・児童委員や各相談支援機関と連携して相談、対応することで活動事例を増やし、またそれが周知の機会となることでコミュニティソーシャルワーク機能の定着化を図りました。

令和4年度より鶴岡市より受託した重層的支援体制整備事業移行準備事業については、対象エリアをモデル的に限定して多機関協働事業を実施し、相談支援機関や地域福祉ワーカーが対応している複雑化・複合化した課題を抱える世帯の支援について、支援会議等により課題や対策の確認を行いました。また、鶴岡市における重層的支援体制整備事業の方向性について鶴岡市担当部署と協議を重ねました。

(2) 重点事業

① 地域福祉活動計画及び地域支え合いプランの推進

第3次地域福祉活動計画「おだがいさまのまちづくり計画2020」に沿った事業推進のため、地域福祉部門（地域福祉課、生活支援課、各福祉センター、各地域包括支援センター、障害者相談支援センター、地域生活自立支援センター）において、評価管理シートによる進行管理を行いました。地域支え合いプランについては、鶴岡地域においては、学区・地区社会福祉協議会等の地域福祉推進基礎組織が、進行管理・評価シートによりプランの検証及び取組の検討を行いながら事業を推進し、地域庁舎エリア（藤島、羽黒、櫛引、朝日、温海）の福祉センターにおいては、地域福祉委員会による地域支え合いプランに基づいた事業の検証と協議により、住民主体の取組を推進しました。

② 重層的支援体制整備事業移行準備事業の実施とコミュニティソーシャルワークの実践

地域住民の複雑化・複合化した支援ニーズに対応する包括的な支援体制を整備するため、鶴岡市からの委託により、相談支援・参加支援・地域づくりに向けた支援を一体的に実施する重層的支援体制整備事業への移行準備事業として、多機関協働事業を実施しました。令和4年度は、地域包括支援センターかたりあい、なえづ、くしびきエリアにおいてモデル的に取組み、地域包括支援センター、障害者相談支援センター、地域生活自立支援センター、

子ども家庭支援センターと連携し、現在、相談支援機関が抱える支援困難ケースについて支援会議において検討し、地域福祉ワーカーのコミュニティソーシャルワーク実践につなげるなどの支援を図りました。

③ 災害対応の強化

大規模災害の発生に準備・対応するため、災害ボランティアセンター設置・運営のスタッフを担う関係者と地域組織を対象に研修会を開催するほか、鶴岡市総合防災訓練において災害ボランティアセンター設置・運営訓練を行い、設置・運営マニュアルに基づいた行動について確認し、災害発生時に迅速に対応できるよう取り組みました。また、大雨災害により設置された宮城県大崎市及び山形県川西町の災害ボランティアセンターへ職員を派遣し、さらに、特定非営利活動法人鶴岡災害ボランティアネットワークの協力により、宮城県大崎市及び山形県飯豊町でボランティア活動を行い災害に対する支援を図りました。

④ 多様な福祉教育実践の基盤づくり

地域の福祉力向上と担い手の育成のため、学校や地域組織と連携し、障がいを理解する福祉体験学習として、当事者との交流、青色駐車場の整備を通じた学習を行い、また、災害対応に関する体験学習、福祉・介護講座を通じ、「おだがいさまのまちづくり」の意識醸成を図りました。

⑤ 地域における公益的な取組の拡充

特別養護老人ホームを経営する 9 つの社会福祉法人による「社会福祉法人連携による公益的な取組連絡会」を開催し、地域課題に対応する取組について協議しました。令和 4 年度は、生活困窮世帯への支援を目的とした、連絡会参加法人合同によるフードドライブを実施し、相談支援機関と連携しながら、年末の時期に、希望する世帯へ食料品を提供し生活支援を行いました。

◇ 各福祉センターの地域福祉事業総括

・鶴岡福祉センター

学区・地区社会福祉協議会等が策定した小地域ごとの福祉活動を示す計画「地域支え合いプラン」の進行管理・評価について、実施主体である学区・地区社協等の地域福祉推進基礎組織とともに、地域福祉課地区担当職員も関わりながらプランの進捗状況、方向性を確認しました。地域支え合いプランに基づいた各学区・地区における事業推進のため、ネットワーク会議等へ積極的に参加し、地域の生活課題に対応する住民主体の仕組みづくりへの支援を図りました。

重層的支援体制の機能である多機関協働事業を令和 4 年度はエリアを限定しモデル的に取り組み、令和 5 年度以降は対象エリアを拡大するなど、鶴岡市における包括的支援体制について移行準備期間中(3年間)の整備に向け鶴岡市担当部署と協議しました。

・藤島福祉センター

令和4年度もふじしま地域支え合いプランの3つの重点目標に基づき各種事業を実施しました。地域の特色ある福祉活動として「農福連携プロジェクト」を庄内農業高等学校と一緒に取り組み、高齢者の生きがいづくりを進めました。

福祉相談支援窓口については、藤島庁舎市民福祉課及び地域包括支援センターふじしまと当センターの三者で定期的開催している「ふじしまつながりメンバーズ会議²」及び「ふじしま地域ケア会議」を通して、地域住民に対する支援の充実に努めました。

また、小中学生を対象としたサマーチャレンジについては、ボランティア活動を通じて福祉の心を醸成するための事業として、令和4年度は「障がい」をテーマとして「青色駐車場」の整備を行いました。

<地域福祉委員会開催状況>

	内 容
第1回	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度藤島福祉センターの事業概要について ・第2次藤島地域支え合いプランの進捗状況について
第2回	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度中間総括について ・第2次藤島地域支え合いプランの進捗状況について

<広報おだがいさま地域版発行状況>

・第52号（7月1日発行）・第53号（10月1日発行）・第54号（3月1日発行）

・羽黒福祉センター

令和4年度も第2次「羽黒おもいやりプラン」の3つの活動目標に基づき各種事業を実施しました。平成31（令和元）年度から開設している気軽に立ち寄れる場としての「いっぷくどうぞ」は、従来の福祉センターの取組のみならず一部の地域活動センターでも自主的に取組が始まる等活動の輪が広がっています。

自殺予防対策として取り組んでいる、こころの健康づくり講演会は、令和4年度は手向地域活動センターを会場に開催し、また、住民組織の代表や羽黒庁舎等と連携し「羽黒地域こころの健康づくり応援団」による出前講座を1ヵ所で行いました。

さらに、令和3年度から取り組んだグラウンドゴルフ大会については、令和4年度は45名の方から参加していただきました。

<地域福祉委員会開催状況>

	内 容
第1回	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度羽黒福祉センターの事業概要について ・第2次羽黒地域支え合いプランの具体的な取組について

² ふじしまつながりメンバーズ会議：藤島福祉センター、藤島庁舎市民福祉課及び地域包括支援センターふじしまの職員が藤島の地域福祉の取組について話し合う、月に一度開催している会議。

第 2 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和 4 年度羽黒福祉センターの中間総括について ・ 第 2 次羽黒地域支え合いプランの進捗状況について
-------	---

<広報おだがいさま地域版発行状況>

- ・ 第 40 号 (7 月 1 日発行) ・ 第 41 号 (3 月 1 日発行)

・ 櫛引福祉センター

第 2 次櫛引地域支え合いプランの進行管理・評価について、地域福祉委員会で意見交換を行い、地域福祉推進活動に関する理解促進と情報発信のため福祉学習推進に努めました。

また、令和 3 年度より「ひきこもり相談会」を継続して実施したことにより、関係機関との連携も深まり、定期的な相談支援とともに体験型の就労支援を行いました。また、重層的な支援体制を意識した会議を開催し、チームアプローチによる支援を心掛けました。

さらに、小中学校との連携では、「水害予防リーフレット」を活用し、酒田河川事務所・鶴岡市防災安全課・櫛引庁舎総務企画課と連携し、サマーチャレンジイベントでの災害体験を行いました。また、教育委員会と連携し、櫛引地区校長会において、地域と学校をつなげるコーディネートの協力や各学校に福祉学習を組み入れた教育カリキュラムを周知しました。

<地域福祉委員会開催状況>

	内 容
第 1 回	<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和 4 年度櫛引福祉センター事業の経過について ・ 地域支え合いプランの推進に向けた取組について ①第 2 次櫛引地域支え合いプラン進行管理シートの説明 ②地域包括支援センターくしびき報告 <li style="padding-left: 20px;">「通いの場」への移動販売立ち上げ経過について <li style="padding-left: 20px;">「通いの場」全体交流会の報告について

<広報おだがいさま地域版発行状況>

- ・ 第 49 号 (10 月 1 日発行) ・ 第 50 号 (3 月 1 日発行)

・ 朝日福祉センター

計画期間 2 年目を迎えた「朝日地域支え合いプラン」については、進行管理シートを活用しながら地域福祉委員会において進行管理・評価を行い、3 地区の自治振興会が朝日地域の地域福祉を進める上で重要な役割を担っていることを共有しました。

また、地域福祉委員会や地域支援ネットワーク会議、自治会単位の見守り情報交換会などの地域づくり関係会議を開催し、福祉センターと自治振興会の協働事業として「地域ぐるみの配食事業」に取り組み、令和 5 年度からは朝日地域の全住民を対象とした「家族安心カード設置事業」に取り組むことになりました。

さらに、相談支援ネットワーク会議を定期開催し、朝日地域における相談支援の多職種連携を促進する場づくりを図り、多様な立場の方々によるサポートネットワークを構築することができました。

<地域福祉委員会開催状況>

	内 容
小委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・地域支え合いプランの進行管理について ・令和3年度進捗状況の報告、重点的協議事項の選定 ・令和4年度朝日福祉センター事業について
第1回	<ul style="list-style-type: none"> ・地域支え合いプランの進捗状況について ・地域支え合いプランの推進に向けた重点的協議事項について ①高齢者等がデジタル化から取り残されないための取組 ②安心カードの対象者拡大・自主防災組織との連携
第2回	<ul style="list-style-type: none"> ・地域支え合いプランの推進に向けた取組の経過について ・地域支え合いプランの推進に向けた重点的協議事項について ③除雪・雪下ろしの担い手発掘 ④近隣のつながりを生かした見守りの仕組みづくり

<広報おだがいさま地域版発行状況>

- ・第15号（12月1日発行）・第16号（3月1日発行）

・**温海福祉センター**

第2次温海地域支え合いプラン実施2年目となり、「コア会議」において具体的な取組について検討を行いました。防災意識の向上では、地域福祉委員会において要援護者マップづくりの先進事例として、宮名自治会より活動を発表していただき、他委員への情報提供を図りました。社会的孤立の解消では、若年層を対象にした社会活動への参加の機会として、粗大ごみの仕分け作業や封書詰め作業などに参加していただきました。

また、福祉教育の強化では、温海中学校3年生を対象に「地域を知る、あつみの未来をデザインする」、「差別のない社会、ジェンダー～平等」といったテーマで、地域の専門職や社会人大学生による講演会を実施し、福祉有償移送サービス事業においては、運転ボランティアを3名増員したことでニーズへの柔軟な対応を図りました。

<地域福祉委員会開催状況>

	内 容
第1回	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度温海福祉センター事業計画について ・温海地域支え合いプラン実施検討経過について ・災害避難行動要支援者支援への取組事例発表
第2回	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度温海福祉センター事業中間総括について ・各委員から取組状況、情報提供 ・研修会（地域福祉活動における個人情報の取扱いについて）

<広報おだがいさま地域版発行状況>

- ・第29号（8月1日発行）
- ・第30号（3月1日発行）

(3) 地域福祉関連事業

① 福祉コミュニティづくり事業（鶴岡地域）

鶴岡地域の地域福祉推進拠点である学区・地区社協等に対し運営費を助成するとともに、学区・地区社協連絡委員会事務局として会議及び福祉協力員活動に関する研修会を開催し、各学区・地区社協等間の情報交換により活動の活性化を図りました。

・助成金交付実績

(単位：円)

No.	学区・地区社協名	助成金額	No.	学区・地区社協名	助成金額
1	第一学区コミュニティ振興会	320,000	8	斎地区社会福祉協議会	260,000
2	第二学区コミュニティ振興会		9	黄金地区社会福祉協議会	
3	第三学区社会福祉協議会		10	湯田川地区社会福祉協議会	
4	第四学区コミュニティ振興会		11	大泉地区社会福祉協議会	
5	第五学区社会福祉協議会		12	京田地区社会福祉協議会	
6	第六学区コミュニティネットワーク		13	栄地区社会福祉協議会	
7	大山社会福祉協議会		14	田川地区社会福祉協議会	
		15	上郷地区社会福祉協議会		
		16	三瀬地区福祉のまちづくり協議会		
		17	由良社会福祉協議会		
		18	小堅地区社会福祉協議会		
		19	加茂地区社会福祉協議会		
		20	湯野浜地区社会福祉協議会		
		21	西郷地区社会福祉協議会		

・鶴岡市学区・地区社会福祉協議会連絡委員会各種会議・研修会

会議・研修名	期 日	主な内容	参加者
幹事会	6月8日	・連絡委員会への報告、提案事項について ・令和4年度鶴岡市社協、学区・地区社協活動概要、共同募金配分事業について	15人
連絡委員会	7月1日	・令和3年度事業報告及び収支決算について ・令和4年度事業計画（案）及び収支予算（案）並びに研修会について ・令和4年度鶴岡市社協、学区・地区社協活動概要、共同募金配分事業について	21人
役員・コーディネーター等研修会	1月31日	・講演「福祉協力員の必要性和活動について」 講師 東北公益文科大学 小関久恵 准教授 ・情報交換 ※鶴岡市の地域福祉リーダー養成研修と同時開催	54人

② おだがいさまのまちづくり事業

誰もが安心して住み慣れた地域で暮らし続けていくための取組として、地域のサロン活動やボランティア活動への支援、さらに、地域福祉推進組織と地域関係団体等との地域ケアネットワーク会議等を開催し、地域におけるネットワークづくりを進め、住民主体による見守り・支え合い活動の活性化を図りました。

a 福祉活動助成支援

- ・おだがいさまのまちづくり事業助成金交付（鶴岡地域）

学区・地区社協等が地域支え合いプランに基づいた福祉活動の取組ができるよう助成金の交付と地区担当職員による活動支援を行いました。

＜活動の実施状況＞

（単位：円）

団体名	活動内容	助成金額
第二学区コミュニティ振興会	認知症・介護者支援事業	100,000
第四学区コミュニティ振興会	第四学区日常生活見守りネットワーク事業（第三期）	100,000
第六学区コミュニティネットワーク	子どもから高齢者まで集まる居場所活用	100,000
京田地区社会福祉協議会	助け合い安心して暮らせる支援活動	100,000
栄地区社会福祉協議会	地域支え合い活動推進事業	100,000
田川地区社会福祉協議会	支え合いネット活動	100,000
上郷地区社会福祉協議会	安心カードの様式変更および促進活動	100,000
小堅地区社会福祉協議会	防災福祉マップ・安心カード・鍵預かり事業の更新	100,000
湯野浜地区社会福祉協議会	湯野浜社会参加促進事業	100,000
大山社会福祉協議会	「大山地区除雪サポート隊」による要支援者サポート事業	100,000
西郷地区社会福祉協議会	西郷地区健康づくり事業	74,000

※令和4年度 11事業 令和3年度 6事業

- ＜ふくし座談会の実施＞
- ・令和4年度は38件申請、うち12件実施
 - ・令和3年度は41件申請、うち11件実施

- ・お茶のみサロン活動助成金交付（鶴岡地域）

鶴岡地域において、町内会・自治会等一定の区域を範囲として地域住民が主体となって取り組むサロン活動に対し、その活動費の一部を助成し地域の見守り活動への支援を図りました。

＜助成件数＞ ・令和4年度 94件 ・平成3年度 101件

- ・各種活動助成事業（藤島・羽黒・櫛引・朝日・温海地域）

町内会、集落等の自治組織、住民団体等が行う各種活動において、福祉課題の把握や地域ニーズに対応した小地域活動を支援し、住民主体の地域福祉活動の充実を図りました。

<実施状況>

(単位：箇所数)

福祉センター	サロン活動		住民福祉座談会等		ボランティア活動		人材育成		福祉研修・講座		地域福祉サービス等	
	R3	R4	R3	R4	R3	R4	R3	R4	R3	R4	R3	R4
藤島	23	21	1	1	0	0	0	0	0	1	0	0
羽黒	6	6	0	0	0	0	0	0	2	2	2	1
櫛引	5	6	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
朝日	10	10	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2
温海	0	0	4	5	0	0	0	0	0	0	0	0

b 小地域福祉活動支援

第3次鶴岡市地域福祉活動計画「おだがいさまのまちづくり計画2020」の4つの基本的視点「気づきあい・つながりあい・支えあい・認めあい」に基づき、小地域福祉活動の推進を支援し、また、一人暮らし高齢者などの緊急時に備える安心カードの設置を消防本部との連携により支援しました。

<実施状況>

福祉センター	事業内容
鶴岡	① 地域支え合いプランの取組推進の支援 ② 安心カード設置活動 学区・地区社協等が民生委員・児童委員や町内会長などと連携し4,671世帯に「安心カード」を設置。消防本部へ4,356世帯分の設置者名簿を提出。希望する世帯へ「安心カードステッカー」を配布。
藤島	① ふじしま安心カードの設置：設置数206世帯301人 町内会、民生委員・児童委員及び地域包括支援センターふじしまの協力により実施。
羽黒	① 緊急連絡カードの設置：設置数372世帯557人 民生委員・児童委員の協力により実施。
櫛引	① 支え合いネット活動：各地区の支え合いの仕組み推進のため、住民座談会の開催 ② 安心カードの設置数：672世帯1,012人。保健福祉推進員、区長、民生委員・児童委員の協力により実施。
朝日	① 朝日地域おだがいさまネット活動推進事業 中央地区自治振興会「おだがいさま除雪支援ネット」 要支援者10人、サポーター8人、支援回数179回 ② 安心カードの設置：設置数302世帯492人 自治会、民生委員・児童委員、地域包括支援センターあさひの協力により実施。

	③ 家族安心カード設置事業企画会議:2回 自治振興会、自治会連絡協議会、民生児童委員協議会、地域包括支援センター、庁舎関係課と検討。
温 海	① 福祉連絡カードの設置 一人暮らし高齢者 477 世帯、二人暮らし高齢者 401 世帯、高齢者のみ世帯 77 世帯 民生委員・児童委員の協力により実施。

c. 人にやさしいまちづくり事業

【鶴岡福祉センター（ボランティアセンター）】

高齢者・障がい者等が、地域の中で安心して暮らし、社会参加できる環境づくりとして、車イス貸出し事業を実施しました。

活動内容	件数
車イス貸出し（10 台整備）	55 件

【藤島福祉センター】

子育て世帯への支援を目的としたチャイルドシートの貸出しや、地域活動を支援するための遊具等の貸出しを行いました。

活動内容	件数
チャイルドシート貸出し（16 台）	31 件
輪投げ等遊具貸出し（6 セット）	11 件
擬似体験セット貸出し（3 セット）	1 件
車イス貸出し（1 台整備）	0 件

【羽黒福祉センター】

高齢者・障がい者・子育て世帯等が、地域の中で安心して暮らすことができる環境づくりや生活支援のための事業を実施しました。また、自殺予防対策として、「羽黒地域こころの健康づくり応援団」の活動支援や講演会を開催しました。

活動内容	件数等
障がい者用駐車場(青色駐車場)の整備	1 ヲ所
チャイルドシート貸出し(53 台)	31 件
車イス貸出し（4 台整備）	22 件
こころの健康づくり講演会の開催	41 人
こころの健康づくり出前講座	1 回

【櫛引福祉センター】

子育てサポーター会員の窓口として支援を行い、子育てサポーター（10 名）による保育園・小学校でのボランティア活動を月 2 回「もの作り」活動を実施。保育園には牛乳パック

で作ったイスの贈呈、小学校では黒川能の衣装へのタグ付けを行いました。

活動内容	件数等
子育てサポーター研修・活動	31回
チャイルドシート貸出し（91台）	197件
車イス貸出し（6台整備）	24件
遊具の貸出し	27件

【朝日福祉センター】

チャイルドシートの貸出しは、子育て世帯への支援として、また、輪投げ等の遊具の貸出しは高齢者の生きがづくり等に活用されました。

活動内容	件数
チャイルドシート貸出し（15台）	22件
疑似体験セット・輪投げ等の遊具の貸出し	27件

【温海福祉センター】

子育て支援としてのチャイルドシートの貸出し及び、ジュニアシートの貸出しを行い、外出支援として車イスを貸出しました。

活動内容	件数
チャイルドシート（9台） ジュニアシートの貸出し（2台）整備	20件
車イス貸出し（4台整備）	9件

d 福祉関係団体等助成

福祉関係団体等への運営費助成及び活動助成金を交付し、活動支援を図りました。

<福祉団体等への活動助成の状況>

地域	R2年度		R3年度		R4年度	
	団体数	助成金額 (円)	団体数	助成金額 (円)	団体数	助成金額 (円)
鶴岡	11	653,000	10	633,000	9	548,000
藤島	8	315,000	7	305,000	7	305,000
羽黒	5	240,000	5	240,000	5	240,000
櫛引	4	118,000	4	118,000	4	118,000
朝日	4	278,000	3	268,000	3	240,000
温海	5	365,000	5	345,000	5	310,000
合計	37	1,969,000	34	1,909,000	33	1,761,000

地 域	助 成 団 体
鶴 岡	老人クラブ、身障協会、民生児童委員協議会、手をつなぐ親の会、母子会、遺族会、保護司会、民間保育園協議会、学区・地区社会福祉協議会連絡委員会
藤 島	老人クラブ、身体障害者福祉団体連合会、民生児童委員協議会連合会、児童健全育成町民会議(4地区)
羽 黒	老人クラブ、身体障害者福祉団体連合会、手をつなぐ育成会、赤十字奉仕団、しゃべってほっとの会
櫛 引	老人クラブ、身体障害者福祉協会、婦人会、遺族会
朝 日	老人クラブ、身体障害者福祉協会、民生児童委員協議会
温 海	老人クラブ、身体障害者福祉団体連合会、民生児童委員協議会連合会、手をつなぐ育成会、山戸支え合い準備会

e 仲間づくり交流事業（藤島・羽黒・櫛引・温海地域）

町内会、集落等で開催されるお茶のみサロン等への活動支援や高齢者等を対象とした介護予防や健康増進、仲間づくりを目的とした講座等を地域の各種関係団体、専門機関との連携により実施し、地域住民の閉じこもり防止や生きがいがづくりに取り組みました。

【藤島福祉センター】

健康寿命の増進と運動を通じた高齢者の生きがいがづくりや仲間づくりを目的として、令和4年度は「いきいき健康づくり教室」を毎週金曜日に8回を1コースとして、藤島老人福祉センターを会場に実施しました。

【羽黒福祉センター】

集落等が実施するお茶のみサロン活動等に対して、庁舎市民福祉課や地域包括支援センターと連携し、健康増進や認知症予防等の事業企画や実施の際にも支援を行いました。

また、自由参加型サロン「ハッピー広場」へも合わせて支援を行いました。

【櫛引福祉センター】

櫛引地域の介護保険事業所と鶴岡市社協の事業所（デイサービス・居宅介護支援・訪問介護・地域包括支援センター・福祉センター）の協働により、通いの場等に出向いての活動支援として「ふれあい福祉講座」を年9回実施し、127名が参加しました。

【温海福祉センター】

令和4年度から社会参加活動として、なかなか仕事が見つからない、続かない方々を対象にゴミの分別や封詰め作業、ボランティア活動などを行い、「交流の場づくり」に取り組みました。

③ 会食・配食・交流事業

一人暮らし高齢者等の閉じこもり防止や食の楽しみ、社会参加を進めることを目的に、鶴岡地域では学区・地区社協等の主催、朝日地域、温海地域においてはボランティア団体等の協働により、食事を伴う交流及び見守り事業等を支援しました。

【鶴岡福祉センター】

学区・地区社会福祉協議会等の地域福祉推進組織が実施主体となり、新型コロナウイルス感染症の感染予防に努めながら、会食から配食への切り替えや、会場に集い交流を図りつつ、食事はテイクアウト方式で行うなど工夫しながら実施しました。

<実施状況>

学区・地区名	実施回数（回）	会食者数（人）	配食者数（人）
第一学区	10	0	377
第二学区	8	92	93
第三学区	9	168	50
第四学区	9	231	0
第五学区	11	259	188
第六学区	11	282	108
斎地区	2	0	87
黄金地区	2	0	35
湯田川地区	2	0	100
大泉地区	10	0	156
京田地区	14	21	131
栄地区	7	0	96
田川地区	10	65	0
上郷地区	5	62	0
三瀬地区	10	0	317
由良地区	6	118	22
加茂地区	5	0	427
湯野浜地区	3	128	51
大山地区	10	234	0
西郷地区	2	0	57
合 計	146	1,660	2,295

【朝日福祉センター】

食事の支度や食材の買い出しに苦勞している方等の自宅へ週1回「にこにこ弁当」をお届けしました。事業周知は自治振興会や民生児童員等、弁当づくりは地元商店（6店）、スイーツづくりは食生活改善推進協議会、配達ボランティア団体「ほほえみ桜の会」が担い、様々な団体・機関等と連携しながら事業を実施しました。

<実施状況>

回数（回）	配食者数（人）
40	1,316

【温海福祉センター】

ボランティア（あたたかグループ）が調理した「あったか弁当」を、75歳以上の一人暮らし高齢者等の自宅へ配食を行いました。弁当の掛け紙の絵やメッセージは地元の小学生の協力により作成しました。

<実施状況>

回数（回）	配食者数（人）
11	1,342

④ 福祉有償移送サービス事業

バスやタクシーなどの公共交通機関を利用することが難しい高齢の方や障がいのある方の移動支援事業を福祉車両により行いました。また、運転者を対象とした安全運転講習を計3回実施し、安全・安心な運転方法などの基礎的な知識・技術を確認する機会をつくりました。

<事業実績>

(単位：登録数→人、運行回数→回)

年度	鶴 岡		朝 日		温 海		合 計	
	登録数	運行回数	登録数	運行回数	登録数	運行回数	登録数	運行回数
R2	97	1,846	29	72	79	234	205	2,152
R3	84	1,609	24	149	79	211	187	1,969
R4	74	1,273	30	264	68	220	172	1,757

※ 藤島・羽黒・櫛引地域在住の方は、鶴岡・朝日・温海いずれかの福祉センターで対応。

※ 登録数、運行回数はR5.3月末現在のもの。

⑤ ボランティア活動推進事業

◇鶴岡市ボランティアセンターの運営

<ボランティアセンター来所者数>

年度	合計	来所の主な目的
R2	1,050 人	ボランティア活動希望・依頼・登録等の相談、ボランティア保険相談・申請、福祉学習相談、情報提供、その他ボランティア関係相談全般等
R3	1,020 人	
R4	1,059 人	

< ボランティア登録状況 >

年度	個人	団体	主な分野
R2	36人	63団体	読み聞かせ、昔語り、福祉施設での活動、生活支援（傾聴含む）、学生・若者の活動、障がい者支援、子ども支援（学習支援・子ども食堂含）、災害支援、人材養成、環境美化、健康増進、外国人サポート、国際、演芸、まちづくり等
R3	52人	68団体	
R4	52人	65団体	

< ボランティアセンター相談件数（電話・来所） >

（単位：件）

年度	活動依頼								活動希望（計）	その他の相談対応						合計
	高齢	障がい	子育て	環境	地域	イベント	その他	小計		ボラ保険	講座・助成金・福祉学習・出前	物品等貸出	寄付・収集	災害（平時含）	その他	
R2	2	4	0	1	1	1	5	14	39	171	114	37	157	115	345	992
R3	4	3	3	1	1	6	13	31	44	199	134	74	150	31	231	894
R4	9	12	3	5	5	4	12	50	132	275	149	123	167	71	350	1,317

◇ ボランティア活動を促進する取組等

・ 交流・研修会の実施

中高校生・高専生と鶴岡田川地区保護司会等との「ボランティア交流会」を開催し、また、各高校ボランティア部・地域の学生ボランティアサークルが協力し「社会を明るくする運動」の啓発活動を行い、さらに、傾聴や要約筆記活動を行うボランティア団体主催の研修会等に協力しました。

< 実施内容 >

事業名	内容	場所	参加人数
傾聴ボランティア養成講座（7月～9月）	・ 良い聞き手を育成するための講座を計6回開催	Zoomによるオンライン講座	3人
鶴岡・田川地区高校生等ボランティア交流会（10月）	・ 「社会を明るくする運動」啓発用グッズ作成 ・ 学生ボランティア活動紹介	マリカ市民ホール	40人
鶴岡・田川地区高校生等「社会を明るくする運動」啓発活動（11月～3月）	・ 各高校、高専ボランティア部、学生ボラサークルごとに啓発用グッズ作成 ・ 各地域内で訪問啓発活動	鶴岡・田川地区内	7部活 11サークル
きこえのバリアフリー教室（12月）	・ 講話「聴覚障がいがある人の防災を考える」 ・ 中途失聴、難聴者の体験談 ・ 要約筆記のしくみと体験等	にこふる大会議室	25人

・企業等と連携した活動

企業等からボランティア活動の相談を受け、地域貢献活動につながる活動へのマッチングや災害応援隊（NPO 法人事業）への事前登録等を行いました。

＜実施内容＞

相談件数	実施件数	延人数	主な内容
10	9	90	子ども食堂へ食材提供、災害応援隊事前登録、山間部の一人暮らし高齢者宅等の除排雪、チューリップ園の植栽等

・ボランティア団体助成事業

ボランティア団体の活動を支援し、地域福祉力向上を図るため7団体へ助成金（計 98,000 円）を交付しました。

＜交付団体数（分野別）＞

（単位：件）

年度	芸能	読み聞かせ	昔語り	学生若者	高齢者支援	障がい者支援	子ども子育て	その他	計
R2	0	1	0	2	1	1	2	0	7
R3	0	1	0	1	0	1	3	2	8
R4	1	1	0	2	0	1	1	1	7

＜交付団体名＞

- 1) サロンお話の部屋
- 2) 要約筆記「おひさま」
- 3) 鶴岡バイオリンサークル
- 4) 百凛花
- 5) 庄内こころ塾
- 6) 羽黒地域中高生ボランティア鶴の恩返し
- 7) 朝日地域高校生ボランティアサークル「かだんこの会」

◇ 災害に関する取組

・災害ボランティアセンター設置・運営訓練

鶴岡市総合防災訓練において、災害ボランティアセンター設置・運営訓練を、他団体や開催地の地域住民の方々よりご協力をいただき実施しました。

＜実施状況＞

開催月	開催地	参加人数	備考
10月	朝日地域	36人	・災害ボランティアセンタースタッフ役 （青年会議所、市社協職員） ・ボランティア役（NPO法人、朝日地域住民）

・災害に関する研修会

鶴岡市や市内の各種関係団体等を対象に、災害時に迅速で的確な対応ができるよう、役割の確認や連携等災害に関する研修会を開催しました。

<実施状況>

研修名	内 容	参加人数
中央児童館「災害起きたら… もしもに備えよう！講座」 (9月)	新米ママたち対象の災害時の対応等	17人
災害ボランティアセンター 研修会(11月)	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマ 「たった今、ここで大地震が発生したら、あなたはどう動き…何をしますか」 ・内容 講演、机上イメージ訓練 ・対象 青年会議所、NPO法人、災害ボラセン連絡会構成員、市社協職員 	30人

◇ 各福祉センターの主な取組

<実施状況>

	内 容
ボランティアセンター (鶴岡福祉センター)	<ul style="list-style-type: none"> ・ちょボラ場(ちょっとしたボランティア活動) 延べ149人参加 ・学生ちょボラ場(高校生対象)延べ4人参加
藤島福祉センター	<ul style="list-style-type: none"> ・ちょボラ場(ちょっとしたボランティア活動) 延べ66人参加 ・サマーチャレンジ 「青色駐車場整備」8人参加
羽黒福祉センター	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動支援(傾聴ボラ シャベってほっとの会) ・サマーチャレンジ 「ほとりあ自然体験」12人参加、「青色駐車場整備」11人参加
櫛引福祉センター	<ul style="list-style-type: none"> ・サマーチャレンジ in くしびき 「コロナコマーシャル作成」・「青色駐車場整備」「災害体験」 延べ27人参加 ・ボランティア活動支援(子育てサポーター)
朝日福祉センター	<ul style="list-style-type: none"> ・地域ぐるみの配食事業にボランティア団体「ほほえみ桜の会」(延べ80人)が弁当配達で、食生活改善推進協議会朝日地域(延べ8人)がスイーツづくりで協力 ・ボランティア活動支援(ほほえみ桜の会・さわやかなの会)
温海福祉センター	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年ボランティア育成講座 ボランティアについての学習や温泉地域の美化活動などを通じ、自分たちの住む地域を知り愛郷心を育む 延べ54人

◇ 福祉教育の推進

・福祉学習助成金交付状況

児童・生徒の「福祉のこころ」を育むため、小・中学校と連携した福祉学習、ボランティア体験学習に対して助成金を交付しました。

<実施状況>

年度	小学校	中学校	高等学校 (高専含)	特別支援 学校	計	
					学校数	金額
R2	11校	2校	5校	0校	18校	393,000円
R3	14校	2校	4校	1校	21校	559,200円
R4	11校	4校	2校	1校	18校	485,000円

※助成限度額 1校当たり 30,000円

・福祉学習サポーター活動

福祉学習等に協力するサポーター16人が登録し、小中学校等の依頼に対し、サポーターよりご協力をいただきながら福祉学習を実施しました。

<実施状況>

年度	回数	延べ人数	実施内訳 (延べ回数)
R2	3回	4人	小学校2、中学校1
R3	8回	11人	小学校5、中学校1、サマーチャレンジ2
R4	5回	14人	小学校3、中学校1、サマーチャレンジ1

・各福祉センターの主な取組

<福祉学習・ボランティア講座の実施状況>

	回数	参加延べ 人数	内容・対象
鶴岡福祉センター	17回	739人	・福祉学習 小学校11、中学校2 ・出前講座 地域2、児童館1、高校1
藤島福祉センター	2回	128人	・高齢者や施設入所者の方との交流体験学習 小学校2校
羽黒福祉センター	5回	191人	・障がいや認知症に関する理解促進を図る学習 小学校1校、中学校1校
櫛引福祉センター	①9回 ②5回	①127人 ②87人	①ふれあい福祉講座 地域住民 (サロン出前講座) ②高齢者疑似体験・車いす体験・障がいを理解する福祉学習 小学校3校
朝日福祉センター	3回	66人	・視覚障害のある方の講話・質疑応答、サウンドテーブルテニス体験 小学校1校

			・地域福祉講座 本郷地区老人クラブ
温海福祉センター	2回	78人	・「あつみの未来を考えるデザイン思考ワークショップ」 ・「差別・偏見のない社会を創るために～ジェンダー平等」 中学校1校

⑥ 地域福祉運営事業

・鶴岡市社会福祉協議会表彰状の贈呈

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、令和2年度、令和3年度と同様に福祉のつどいを中止したため、表彰状贈呈式を開催し、地域福祉活動などに功績顕著な6個人、6団体に対して表彰を行いました。

<鶴岡市社会福祉協議会表彰状贈呈式>

- ・期 日 令和4年11月10日(木)
- ・会 場 鶴岡市総合保健福祉センター 大会議室
- ・受賞者 【表彰状】

上郷地区社会福祉協議会(福祉団体)、佐藤美喜雄氏(福祉団体等役員)
鶴岡市立朝暘第二小学校(福祉団体)、荒瀬英雄氏(社会福祉活動奉仕者)
田川民話の会(福祉団体)、鶴岡南高等学校 JRC部(福祉団体)
藤島地域青少年ボランティアサークル「Ben's」(福祉団体)

【感謝状】

佐藤八重治氏(社会福祉活動奉仕者)、佐藤正氏(社会福祉活動奉仕者)
渡部登美氏(社会福祉活動奉仕者)、真如苑庄内支部(寄付者)
佐藤信行氏(寄付者)

※令和2年度 表彰状受賞者 個人 2、団体 7
感謝状受賞者 個人 0、団体 0
令和3年度 表彰状受賞者 個人 4、団体 5
感謝状受賞者 個人 2、団体 5

・「鶴亀番付」の発行

数え年で100歳以上の長寿者をお祝いするとともに市民の励みとしてもらうことを目的に、敬老の日に合わせて鶴岡市と連携し「鶴亀番付」(相撲の番付風に長寿者名を記載)を発行しました。

- ・発行部数 900部
- ・配布先 番付掲載者、公民館、学区・地区社協等、各福祉センター、高齢者福祉施設等

< 番付掲載者数の状況 >

年度	人数
R2	200 人
R3	215 人
R4	220 人

⑦ 重層的支援体制整備事業への移行準備事業（鶴岡市委託事業）

重層的支援体制整備事業移行準備事業の必須事業である多機関協働事業について実施し、単独の支援機関では対応が難しい事例の多機関の調整役を担い、支援関係機関の役割分担や支援の方向性を定める等の取組を行いました。

- ・重層的支援会議等による検討件数 8 件
- ・事業打ち合わせ及びケース検討会等 14 回
- ・他機関協働事業に係る研修会 1 回

⑧ コミュニティソーシャルワーク機能の充実

令和 3 年度から地域福祉課と各福祉センターの地区担当職員を地域福祉ワーカーとして位置づけ、コミュニティソーシャルワークの実践体制を構築し、個別ケースの相談対応及び、課題解決を図る地域支援に努めました。

< 相談内容 >

(単位：件)

相談内容	病気・健康・障がい	住まい	収入・生活費	家賃・ローン	税金・公共料金	債務	仕事探し・就職	地域との関係	家族関係	ひきこもり・不登校	D V	食べるものがない	虐待	介護
鶴岡	129	124	193	18	4	19	38	18	35	7	0	11	5	18
藤島	23	6	62	3	28	14	15	1	3	6	1	8	0	1
羽黒	80	13	50	0	3	1	14	3	11	20	0	16	1	7
櫛引	40	51	39	12	4	30	14	3	11	38	0	14	3	7
朝日	32	33	27	1	0	0	31	24	17	2	0	2	1	2
温海	105	27	146	4	3	39	59	1	58	33	1	26	3	8
合計	409	254	517	38	42	103	171	50	135	106	2	77	13	43

相談内容	教育資金	子育て	ゴミ屋敷	ペット	依存症	その他	合計
鶴岡	0	11	4	0	0	26	660
藤島	1	0	1	0	0	15	188
羽黒	1	1	0	0	0	6	227
櫛引	1	3	4	13	0	4	291
朝日	0	1	8	5	4	10	200
温海	3	20	1	1	0	51	589
合計	6	36	18	19	4	112	2,155

※相談内容のカウントは重複あり。

⑨ ふれあい福祉相談の開設

住民の福祉に関する相談に対し常設相談を開設し、電話等により受け付けた相談に対しては担当地区の地域福祉ワーカー等につなげ対応しました。山形県弁護士会等からの協力による無料法律相談は年16回開設し、相続や離婚など対人トラブルに係る相談に対し専門的な助言指導により早期解決の一助となりました。

項目	鶴岡	藤島	羽黒	櫛引	朝日	温海	合計
R2年度 法律相談	65	8	8	3	8	8	100
R3年度 法律相談	70	8	8	8	7	6	107
R4年度 法律相談	84	8	4	2	5	8	111

※令和2年度、令和3年度は年14回開設。

※常設相談の件数は、前ページ⑧の地域福祉ワーカーの相談件数と同数。

⑩ 地域における公益的な取組の推進

生活困窮世帯への支援を行うとともに、連絡会参加法人職員の公益的取組に対する意識啓発を図ることを目的に参加法人合同でフードドライブを実施しました。

また、活動の周知のため鶴岡市社協ホームページに連絡会参加法人の取組内容を掲載しました。

<社会福祉法人における公益的な取組にかかる連絡会>

会議名	開催月日	主な内容	参加者
第1回連絡会	9月27日	<ul style="list-style-type: none"> 法人連携による公益的取組にかかる経過について 公益的取組の情報発信について R3年度フードドライブの実施結果及び意見照会 R4年度の取組について 	20人

第2回 連絡会	3月2日	・R4年度フードドライブの実施結果及び意見照会 ・R5年度の各法人合同による取組について	21人
------------	------	---	-----

<連絡会参加法人合同によるフードドライブ>

食品受付期間 11月1日(木)～11月30日(水)

食品提供期間 12月19日(月)～12月27日(火)

食品提供数 乾麺 272個、インスタント麺 278個、レトルト食品 350個、缶詰 381個

提供世帯数 53世帯

⑪ 災害支援

大規模な災害発生時の災害ボランティアセンターの開設やボランティア活動について、山形県社会福祉協議会等の応援要請により被災地支援に努めました。

<令和4年7月15日からの大雨による災害>

市町村名	職員派遣			ボランティア活動		備 考
	日数	実人数	延人数	回数	延人数	
宮城県 大崎市	9	6	22	2	13	大崎市社協と災害時相互応援協定締結 ・災害ボランティアセンター職員派遣 7/21～7/29 ・ボランティア活動 7/21、7/24 NPO 法人鶴岡災害ボランティアネット ワーク登録者協力

<令和4年8月3日からの大雨による災害>

市町村名	職員派遣			ボランティア活動		備 考
	日数	実人数	延人数	回数	延人数	
山形県 川西町	4	4	8	—	—	山形県社協からの応援要請 ・災害ボランティアセンター職員派遣 8/10～8/11、8/16～8/17
山形県 飯豊町	—	—	—	1	10	・ボランティア活動 8/19 NPO 法人鶴岡災害ボランティアネット ワーク登録者協力

⑫ 大震災等支援活動推進事業（山形県社協委託事業）

未曾有の東日本大震災から11年を迎えた令和4年度も、山形県社会福祉協議会の委託を受け避難者生活支援相談員1名を配置し支援活動を継続しました。新型コロナウイルス感染症の影響により、電話による状況確認が主となりましたが、ほとんどの避難者の方々が、地域の一員として安定した生活状況であることを確認しました。

<避難者数の推移>

(単位：世帯/人)

年度	全体		福島県		宮城県	
	世帯数	人数	世帯数	人数	世帯数	人数
R2	34	95	27	75	7	20
R3	33	91	26	71	7	20
R4	30	87	23	67	7	20

※各年度末の世帯数及び人数

・避難者交流事業

避難者同士の交流事業については、避難後年数が経過したことや鶴岡市へ定住していることでの意識の変化により、交流に関するニーズがなく未実施となりました。

・訪問、相談活動

山形県の事業による全戸訪問を実施し、現況を把握するとともに、今後の生活に関する意向を確認しました。また、健康不安のある世帯や高齢者世帯には、山形県看護協会の協力のもと同行訪問を行い、健康相談をあわせて行いました。

<相談対応状況：方法>

(単位：件)

年度	訪問	電話	メール	来所	つなぎ	他	合計		
							避難者	支援者	計
R2	189	366	401	49	2	2	332	677	1,009
R3	106	234	191	31	0	10	221	351	572
R4	140	223	138	39	1	15	227	329	556

<相談対応状況：種別>

(単位：件)

年度	住まい	健康医療	子ども	高齢者	職業	金銭	他	合計		
								避難者	支援者	計
R2	60	308	106	232	107	33	828	814	860	1,674
R3	23	214	82	119	57	0	413	524	384	908
R4	12	202	70	121	42	3	393	480	363	843
連携先	福島県避難者支援課、山形県復興・避難者支援室、山形県社会福祉協議会、山形県看護協会、鶴岡市関係各課、やまがた避難者支援協働ネットワーク、ボランティア団体 等									

※合計欄には、避難者と支援者の合計数。

※<相談対応状況：種別>については重複あり。

- ・関係団体との連携

山形県看護協会と連携し、同行訪問時に避難者の方々の健康相談に対応しました。

⑬ 就労体験受け入れ事業

鶴岡地域生活自立支援センターにおいて就労について相談された方に対し、鶴岡市社協の福祉施設で期間を限定して雇用し、働くための生活リズムを整え、継続就労に向けた働く機会を提供しました。

<実施状況>

(単位：人)

年度	体験者数	一般就労への移行者数
R2	2	1
R3	1	0
R4	1	0

⑭ 家族介護者交流事業（鶴岡市委託事業）

在宅介護者を対象として、関係機関の協力を得て、講話や介護相談、参加者同士の交流と情報交換により介護者の心身のリフレッシュを図りました。

年度	櫛引	
	人数	回数
R2	1	19
R3	1	14
R4	1	16

※櫛引地域以外は他法人等が受託し開催。

⑮ 福祉バス運行事業（鶴岡市委託事業）

福祉関係団体やボランティア団体等の地域福祉推進を目的とした研修や社会参加活動に対し、福祉バス運行による支援を行いました。令和3年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、事業等の中止や利用団体の活動自粛に伴い、運行日数、回数ともに減少しており、運行にあたっては感染拡大予防対策として乗車定員の2分の1を上限として運行しました。

<実施状況>

年度	鶴岡			藤島		
	運行日数	運行回数	延べ利用人数	運行日数	運行回数	延べ利用人数
R2	57日	83回	931人	12日	12回	132人
R3	92日	129回	1,544人	13日	13回	139人
R4	151日	204回	3,001人	22日	22回	301人

※運行台数：鶴岡地域 2台、藤島地域 1台

⑩ 老人福祉センターの運営事業

高齢者に対して健康の増進、教養の向上、生きがいの増進及びレクリエーションなど気軽に利用できる場として運営し、社会参加の促進を図りました。

<開設・利用状況>

(単位：人)

年度	鶴岡		藤島		羽黒		櫛引	
	開設 日数	利用 者数	開設 日数	利用 者数	開設 日数	利用 者数	開設 日数	利用 者数
R2	222日	12,105	30日	241	82日	1,191	203日	3,359
R3	202日	9,825	40日	344	94日	927	179日	2,754
R4	242日	9,763	52日	460	143日	1,427	215日	3,190

(4) 共同募金配分金事業

① 募金運動

赤い羽根募金と歳末たすけあい募金合わせて戸別募金500円を目安に募金運動を展開し、住民の方々から多くのご協力をいただきました。

<募金実績>

(単位：円)

年度	戸別募金	学校募金	法人募金	その他募金	合計
R2	16,419,528	666,604	965,500	1,748,529	19,800,161
R3	16,202,350	555,957	921,000	1,799,581	19,478,888
R4	15,887,264	471,968	891,000	1,753,260	19,003,492

② 配分

赤い羽根募金（令和4年度分）については、市内の18の事業所等に配分決定され、令和5年度の地域福祉活動等に配分金が活用されます。歳末たすけあい募金については、経済的に支援が必要な世帯、児童養護施設入所者、西目地内の土砂災害で被災・避難された世帯に義援金としてお渡ししました。

<福祉施設・団体への配分>

配分事業	R4年度		R3年度	
	件数(件)	金額(円)	件数(件)	金額(円)
地域福祉・在宅福祉事業	8	1,730,000	7	2,007,000
「福祉の心」推進事業	1	50,000	1	50,000
障がい者就労支援事業	1	100,000	1	100,000
民営学童保育所支援事業	6	562,000	7	700,000
福祉車両整備事業	2	2,875,000	2	2,208,000
合計	18	5,317,000	18	5,065,000

<地域福祉活動推進のため鶴岡市社会福祉協議会へ配分>

(単位：円)

配分事業	R4年度	R3年度
ボランティア活動推進事業	1,111,492	1,432,888
地域支え合い体制推進事業	4,589,000	4,840,000
広報誌発行事業	1,500,000	1,500,000
合計	7,200,492	7,772,888

<歳末たすけあい募金配分>

区分	世帯員数	R4年度		R3年度	
		件数(件)	金額(円)	件数(件)	金額(円)
経済的に支援 を必要とする 世帯	1人	227	1,362,000	227	1,362,000
	2人	90	720,000	98	784,000
	3人	62	620,000	60	600,000
	4人	35	420,000	33	396,000
	5人以上	32	480,000	34	510,000
	小計	446	3,602,000	452	3,652,000
児童養護施設入所児童・生徒		18	375,000	19	365,000
災害による被災・避難世帯		7	90,000	—	—
募金運動に関わる事務費経費		—	122,000	—	120,000
合計		471	4,189,000	471	4,137,000

(5) 地域福祉活動計画及び地域支え合いプラン

・第3次鶴岡市地域福祉活動計画の推進及び進行管理

地域福祉活動計画「おだがいさまのまちづくり計画2020」（計画期間：令和3年度～令和7年度）の実施2年目として、地域福祉推進組織及び関係機関等と連携して計画の実施を図り、また、進行管理は、地域福祉課主体により進行管理シートを活用しながら、各福祉センター、生活支援課、各地域包括支援センター、障害者相談支援センター、地域生活自立支援センターとともに、事業の進捗状況や今後の方向性を確認しました。

・地域支え合いプランの推進

【鶴岡福祉センター】

令和2年度に21学区・地区社会福祉協議会等が主体となり策定された小地域の地域福祉活動計画「地域支え合いプラン」を推進するため、計画に基づいた事業の展開と計画の進行管理について、「地域支え合いプラン進行管理・評価シート」により事業の取組状況等を確認し、単年度ごとの目標や進行状況を関係組織と共有しながら、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせる住民主体の地域づくり活動を支援しました。

【藤島福祉センター】「藤島地域支え合いプラン」

令和3年度からの第2次「藤島地域支え合いプラン」に基づき、地域の実情に応じた地域課題の解決に向けた取組について、行政や各団体と相互に連携しながら推進しました。とりわけ地域の特色として取り組んでいる農福連携プロジェクト事業については、地元の高校である庄内農業高等学校から全面的な協力をいただき事業を行いました。また、開催にあたって地域のグループホームや生活自立支援センター「くらしス」への呼びかけをした結果、色々な方々から参加していただき多様な交流が図られました。

【羽黒福祉センター】「羽黒おもいやりプラン」

令和3年度からの第2次「羽黒おもいやりプラン」に基づき、地域課題の解決に向けた取組について、行政や各団体と相互に連携しながら推進しました。また、地域の特徴的な事業である「いっぷくどうぞ」では従来の福祉センターの取組のみならず、一部の地区では自治振興会事業として取り組むなど地域の「交流の場」が広がっており、今後も地域福祉委員会等において、具体的な進め方などを話し合いながら、自治振興会や行政と連携し、地域課題に取り組んで行くこととしました。

【櫛引福祉センター】「くしびき ささえ愛プラン」

地域福祉委員会での進行管理・評価などの意見交換や、通いの場交流会でのグループワーク等から「支え合いの仕組みの具体的な進め方」「本当に必要な方への効果的なアプローチ」等についての支援が「くしびき ささえ愛プラン」を進めるために必要と確認しました。「高齢化」「少人数化」「メンバーや役割の偏り」といった課題解決に向け、運営に関するQ&Aやマンネリ解消に向けた櫛引体操のDVD作成を進め、各地区の状況を確認しながらテーマ別に座談会や小会議での周知啓発に努めました。

【朝日福祉センター】「朝日地域支え合いプラン」

朝日地域支え合いプランは、計画期間2年目を迎え、3地区の自治振興会による「つどい」「見守り」「生活支援」の取組がより一層活性化し、具体的には、子どもたちへの学習支援、シニア向けパソコン・スマホ教室、見守り啓発チラシの作成・配布、有償の住民参加型除雪支援活動「おだがいさま除雪支援ネット」、民間企業や郵便局長会との連携による除雪支援に取り組みました。また、安心カード設置事業については、各自治振興会との協働事業として朝日地域の全住民を対象に実施することが合意され、プランの推進と合わせて朝日の地域福祉推進体制の基盤づくりを図りました。

【温海福祉センター】「温海ささえあいプラン」

第2次ささえあいプラン実施2年目として、令和3年度にコア会議で検討した具体的な進行管理について、地域福祉委員会で再確認するとともに、宮名自治会より先進事例として要援護者マップづくりについて報告していただき、また、鶴岡市担当職員より地域福祉活動における個人情報の法的な取扱いについて説明をしていただき、地域福祉委員のプランへの具体的な取組への一助となるよう企画、実施しました。

2. 生活支援事業

(1) 総括

高齢や障がいなどにより判断能力が不十分な方の福祉サービスの利用や日常的な金銭管理の支援では、利用者の増加に加え、抱える課題も複雑多様化していることから、専門員、生活支援員の研修の充実を図るとともに、相談支援機関や病院等関係機関と連携しながら支援しました。法人後見においては、困難な課題を抱えているケースが増えていることから、司法等専門機関や運営委員会の助言等を仰ぎながら適正な支援に努めました。併せて、地域に潜在する様々な支援を必要としている方については、貸付による生活支援やフードバンクによる食料支援を行うなど自立に向けた支援を行いました。

新たな生活支援サービスの検討については、関係機関に聴き取りを行うなど骨子案の策定に向けて計画的に検討を進めました。

鶴岡市独自の緊急小口資金拡充支援資金貸付については、令和4年9月30日の申請受付期間の終了以降、県社協の動向に連動しながら、償還免除や償還猶予申請の対応をはじめ、令和5年1月からは償還が開始されていることから、それらに係る償還事務手続きを適時進めました。

(2) 重点事業

① 成年後見制度の意識啓発と権利擁護の推進

成年後見制度の周知を目的とした市民向け研修会の開催には至りませんでした。市民からの相談に対応するとともに、関係機関においては連携強化を図り、ケース検討及び情報共有に努めました。

権利擁護に関わる総合的な支援機関の設置については、鶴岡市において権利擁護支援における中核を担う機関を設置することを受け、令和5年度より当社協が成年後見制度利用促進のための体制整備に取り組むこととなりました。

② 日常生活自立支援事業の推進

判断能力が不十分なために、生活費の支払いができない方等について、高齢、障がいの相談機関や行政、病院、民生児童委員などからの相談による契約が増加しています。また、引きこもりや精神科病院に長期入院した方への退院後の支援など、背景が複雑で関係機関と連携して支援を行うケースが増えました。事業開始から22年が経過し課題が多くなっている中で、県社協の検討会の委員として、補助金の適正化、金融機関への協力依頼、施設入居者への支援の在り方などを議論しました。

③ 償還指導と生活の安定に向けた支援

生活福祉資金特例貸付及び鶴岡市独自の緊急小口資金拡充支援資金貸付については、令和5年1月より償還開始となり、国等の動向も踏まえながら、償還、償還免除、償還猶予事務の手続きを進めました。借受後に生活が安定し償還が完了した世帯中にはありますが、

借受世帯の借受後の状況把握を行うことで継続的に関わりをもちながら適切な対応や助言、また、必要に応じて自立相談支援機関等の関係機関とも連携し、生活の安定につながるよう支援しました。

④ 新たな生活支援サービス事業の検討

住まいの確保や維持に課題のある方への新たなサービスを検討しています。相談支援機関、不動産会社、賃貸保証会社への聴き取りを通じて、社協が支援することで契約が決まりやすくなる効果が期待できることが分かりました。利用者の経済状態の把握が前提になることから、日常生活自立支援事業の契約者を対象に、家賃の確実な支払い、丁寧な住まい方の助言、近隣住民とのトラブルの早期解決、定期訪問による生活状況の把握、退去時の費用確保の支援を柱に細部の検討を行い早期の事業化をめざします。

(3) 生活支援関連事業

① 日常生活自立支援事業（山形県社協委託事業）

金銭管理に課題のある認知症高齢者、知的・精神障がい者の方と広く契約しています。新たなケースとして、引きこもりで払い出しや金銭管理の経験がなかった若い利用者に関係機関と同行支援を重ねたケースもありました。未払いや負債の解消、サービス利用料の確実な支払いを通じて、利用者と社会の信頼関係の維持に役立てました。収支状況の把握を通じて生活保護の申請や施設の住み替えを提案するなど、一步踏み込んだ提案をする事例も増えました。生活支援員の研修では、外部の講師を招いて「ケイタイ・スマホ料金の基礎を学ぼう」と題して研修し、近年課題となっている高額な携帯関連料金の仕組みについて学ぶことができました。

<契約件数等の推移>

年度	相談件数	新規契約件数	利用者数
R2	1,999 件	55 件	193 人
R3	2,149 件	36 件	193 人
R4	2,283 件	48 件	205 人

② 成年後見推進事業

法人後見については、令和5年3月末現在23件を受任しています。新規受任では、複雑な課題を有しているケースの依頼が増えていることから、本会法人後見の対象要件に基づき精査し、法人後見運営委員会においても委員からの助言等を受け適正化を図りました。また、受任ケースの中には相続や不動産管理・処分などの課題への対応を求められるケースも増えていることから、法テラスの積極的な活用等により司法等専門家からの助言を得ながら課題解決に努めました。

<法人後見受任件数>

(単位：件)

年度	後見	保佐	補助	合計
R2	8	8	2	18
R3	10	8	3	21
R4	11	8	4	23

③ 生活福祉資金貸付事業（山形県社協委託事業）

生活福祉資金貸付は、就学費用を補うための教育支援資金の貸付が最も多く、次いで緊急小口資金、転居費となっています。受験期に入る年度後半からは進学や進級に伴う教育支援費・就学支度費の貸付が多くなりました。貸付後は民生委員等関係機関と連携を図りながら償還指導を行うとともに、滞納世帯に対してはたすけあい資金と同様に償還指導を行いました。

また、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により令和2年3月25日より緊急小口資金、総合支援資金に特例措置が設けられていましたが、令和4年9月30日で終了となり、令和5年1月より順次償還が開始され、併せて償還事務手続きを進めました。

<生活福祉資金貸付件数等>

年度	貸付件数	貸付金額
R2	59件	34,974,000円
R3	39件	20,023,000円
R4	22件	24,548,000円

<生活福祉資金新規貸付状況>

項目	鶴岡	藤島	羽黒	楡引	朝日	温海	合計
総合支援資金	2						2
教育支援費、就学支度費							0
教育支援費	6						6
就学支度費	2						2
技能修得費	1						1
療養費							0
障がい者自動車購入費							0
転居費	2			1			3
緊急小口資金	6						6
その他	2						2
合計	21	0	0	1	0	0	22

<緊急小口資金・総合支援資金(特例貸付)貸付件数等>

年度	貸付件数	貸付金額
31(R1)	2件	300,000円
R2	538件	158,427,000円
R3	208件	66,755,000円
R4	23件	5,340,000円

※令和2年度貸付件数・貸付金額に受付業務代行機関対応分含む。

項目	鶴岡	藤島	羽黒	櫛引	朝日	温海	合計
緊急小口資金特例貸付	15	1	1	1	0	0	18
総合支援資金特例貸付	5	0	0	0	0	0	5
合計	20	1	1	1	0	0	23

④ たすけあい資金貸付事業

申請理由の内訳は、低収入の状況において予定外の出費が発生し生活費に不足が生じたケースがほとんどですが、それ以外では生活保護申請から決定までの生活をつなぐ費用としての申請が多く、中には日常的に金銭管理に問題があるため生活費不足に陥っているケースもあり、状況によっては日常生活自立支援事業の利用や地域生活自立支援センターへの相談につなぐなど、根本的な課題解決が図られるよう支援を行いました。

滞納世帯に対しては、電話や文書での督促のほかには訪問や面談を行い、現状把握と償還指導を実施し、必要に応じてくらしスなど他の相談機関への紹介も行いました。

また、償還指導が難しくなる長期滞納者については地域福祉課とも連携し、世帯の現状把握を行うとともに再度対応を検討しています。

<たすけあい資金貸付件数等>

項目		鶴岡	藤島	羽黒	櫛引	朝日	温海	合計
R2年度	件数(件)	87	1	1	0	0	5	94
	金額(円)	2,260,000	20,000	20,000	0	0	180,000	2,480,000
R3年度	件数(件)	87	3	3	0	1	11	105
	金額(円)	2,082,000	120,000	55,000	0	6,000	290,000	2,553,000
R4年度	件数(件)	85	5	3	1	1	8	103
	金額(円)	2,323,000	130,000	85,000	20,000	20,000	172,000	2,750,000

<たすけあい資金新規貸付状況>

(単位：件)

項目	鶴岡	藤島	羽黒	櫛引	朝日	温海	合計
生活費	55	3	3	1	0	6	68
生活保護つなぎ資金	14	0	0	0	0	1	15
治療費・療養費	3	0	0	0	0	0	3
入園・入学及び支度金	2	0	0	0	0	0	2
住宅費	3	0	0	0	0	0	3
転居費	1	1	0	0	0	0	2
その他	7	1	0	0	1	1	10
合計	85	5	3	1	1	8	103

⑤ フードバンクの取組

フードバンク³については、コープフードバンク、地域住民の協力(フードドライブ)、個人や企業からの寄付などに支えられました。新たにフードバンクの取組を行なった企業や団体からの寄付もあり、緊急的に食料支援が必要な方へ支援を行うことができました。令和4年度は令和3年度と比較しても大幅に利用者数が増え、また、複数回利用の方も多く、関係機関と連携しながら必要に応じて困窮状態の把握や家計管理の声かけ、情報共有に努めました。生活保護や貸付決定までの間や貸付を受けずに次の収入が入るまでの間をしのぐ手段として経済的負担を軽減する効果があることから、今後も必要性が高まる事業と思われます。

<フードバンク食品提供件数>

(単位：件)

年度	鶴岡	藤島	羽黒	櫛引	朝日	温海	合計
R2	103	8	1	1	1	8	122
R3	153	1	6	4	0	15	179
R4	223	4	6	3	1	13	250

⑥ 緊急小口資金拡充支援資金貸付事業（市独自）

国の動向及び緊急小口資金特例貸付に合わせ、本資金においても令和4年9月30日まで申請受付し、貸付期間を終了しました。新型コロナウイルス感染症の感染状況の収束により貸付件数も大幅に減少し、12件、1,200,000円の貸付実績となりました。

償還では、令和5年1月から償還開始の方が全体の約8割を占めており、10月中旬より順次、償還免除や猶予申請及び償還開始のお知らせを通知するなど事務手続きを進めました。いずれも借受世帯の状況を確認するなど、関係機関と連携した対応に努めました。

³ フードバンク（食料銀行）：包装のいたみなどで、品質には問題がないにもかかわらず市場で流通できなくなった食品を企業などから寄付を受け、生活困窮者などに配給する活動。

<緊急小口資金拡充支援資金貸付状況>

		鶴岡	藤島	羽黒	櫛引	朝日	温海	合計
R2 年度	件数(件)	208	7	2	2	3	2	224
	金額(円)	20,800,000	700,000	200,000	200,000	300,000	200,000	22,400,000
R3 年度	件数(件)	85	0	3	1	0	4	93
	金額(円)	8,500,000	0	300,000	100,000	0	400,000	9,300,000
R4 年度	件数(件)	10	1	1	0	0	0	12
	金額(円)	1,000,000	100,000	100,000	0	0	0	1,200,000

3. 相談支援事業（市委託事業）

(1) 地域包括支援センター

◆ 総括

高齢者等が可能な限り住み慣れた地域でその人らしい生活を継続することができるよう、保健師・社会福祉士・主任介護支援専門員の三職種が多様な相談に対応し、他機関の職種等とも連携しながら総合相談の拠点として機能の充実に継続して努めました。

また、生活支援コーディネーターは、地域における高齢者の生活支援や介護予防の基盤整備に向けて、その調整役を担いながら、地域住民・関係機関等と協働のもと地域の支え合いの仕組みづくりを推進しました。

＜地域包括支援センター職員配置＞

（単位：人）

	担当地域	65歳以上 人口	保健師	主任 ケアマネ	社会 福祉士	生活支援 コーディネーター
地域包括支援センター かたりあい	第六学区・大泉・上郷・三瀬・由良・小堅	6,897	1	1	2	1
地域包括支援センター なえづ	第二学区・斎・黄金	3,523	1	1	1	1
地域包括支援センター くしびき	櫛引	2,591	1	1	1	1

※65歳以上の人口は令和4年3月末現在

◆ 重点目標に対する成果・達成

複合的な課題に対し分野を超えて包括的に支援することができるよう、関係機関等と連携を図りながら一体的な支援に努めました。また、県や市、関係機関等が主催する各種研修会に積極的に参加し、情報共有等を行いながら質の向上に努めました。

高齢者の自立支援に向けた適切なケアマネジメントを実施し、切れ目のない介護予防を継続できるよう、通いの場づくりやフォローアップ等にも積極的に取り組み、地域の支え合いの仕組みづくりに努めました。

<相談件数>

(単位：人)

年度	相談件数	内規	相談形態				相談者	
			訪問	来所	電話	その他	本人・家族等	その他
R2	9,588	351	3,152	888	5,143	405	7,848	6,198
R3	8,237	365	2,455	759	4,506	517	6,809	5,024
R4	6,918	431	2,018	594	3,676	630	5,515	4,655

<相談内容> ※重複含む。

(単位：人)

年度	実態把握	権利擁護関係	介護関係	疾病・障がい関係	包括的	在宅福祉サービス	医療関係	経済的問題	事業対象者・要支援者	その他	介護予防ケアマネジメント	指定予防支援
R2	468	761	2,360	1,304	656	577	703	321	855	171	2,028	1,895
R3	474	653	2,265	984	687	419	462	166	421	364	1,457	1,476
R4	409	659	2,616	1,077	916	523	605	166	456	276	541	446

※事業対象者・要支援者：平成 29 年度開始した総合事業のうち給付実績を伴わない相談

※介護予防ケアマネジメント：平成 29 年度開始した総合事業のうち給付実績を伴う相談

※指定予防支援：要支援 1 又は要支援 2 の認定者の介護予防・生活支援サービス事業以外の給付実績を伴う相談

<研修参加状況>

内 訳	参加人数	研 修 内 容	
内部研修	44 人	接遇・コンプライアンス研修	4 人
		新任介護支援専門員研修	4 人
		新採職員研修	3 人
		地域包括支援センター職員新任研修	5 人
		身元保証センター研修会	12 人
		安全運転研修会	3 人
		階層別研修（管理・監督）	1 人
		情報セキュリティ研修	2 人
		ケアプランデータ連携システム説明会	6 人
		虐待防止・身体拘束について	4 人

外部研修	212 人	鶴岡市健康福祉部新任職員研修	23 人
		市町村社協新任職員研修	2 人
		県包括支援センター新任職員研修	8 人
		障害者相談支援事業所との情報交換会	5 人
		認知症地域支援推進員・初期集中支援支援チーム	9 人
		認知症キャラバン・認知症関係	22 人
		ケアプラン研修	6 人
		高齢者虐待関係・権利擁護	10 人
		地域包括支援センター現任職員研修	3 人
		難病・依存症関係	5 人
		自殺予防・メンタルヘルス関係	3 人
		通いの場・移送サービス等地域づくり	18 人
		担い手養成研修	3 人
		地域包括支援センター課題別研修	3 人
		介護予防ケアマネジメント	6 人
		主任介護支援専門員研修	5 人
		介護認定調査員現任研修	8 人
		医療と介護の連携・交流	8 人
		地域生活定着支援センター研修会	15 人
		東北ブロック職員研修会他	10 人
		介護保険適正推進研修会	2 人
		P D C A サイクルに沿った取組の推進	6 人
		地域包括ケア推進研修会	6 人
		ケアネットつるおか研修会	4 人
		B C P 作成研修会	11 人
		住宅改修研修会	3 人
消費生活サポーター研修会	2 人		
重層的支援体制整備・孤独孤立対策	6 人		
N e t 4 U ⁴ 研修会	1 人		
合計（延べ）	256 人		

⁴ N e t 4 U（ネットフォーユー）：鶴岡地区医師会が構築する医療連携型電子カルテシステム。病院、診療所、訪問看護ステーション、介護サービス事業所などが加入している。

◆ 事業の実施結果

○ 地域包括ケアネットワーク体制の推進

地域ケア推進担当者や地域の関係機関と協働で地域ケア連携等の会議を開催し、身近な地域で支え合える体制整備の重要性の理解を深め、地域における地域ネットワーク体制の推進に努めました。

高齢者が住み慣れた地域での生活を継続できるよう、介護予防や日常生活が活性化する通いの場づくりを推進し、社会参加を通して地域とのつながりを深め、地域住民や地域福祉課と協働しながら支え合いの地域づくりを推進しました。

<地域包括ケアシステム構築のための事業、会議の回数>

年度	介護予防普及啓発事業	地域ケア連携等の会議	事例検討会議
R2	58	138	17
R3	70	175	17
R4	180	177	23

※介護予防普及啓発事業：地区サロン、介護予防講座、住民研修会等

※地域ケア連携等の会議：地域ケア会議⁵、民協定例会等

○ 地域包括支援センターの機能強化

複合的な課題に対応するため、行政をはじめ、医療・介護・福祉が連携し体制を強化していくとともに、地域ケアネットワーク会議や地域ケア個別会議等の開催及び参加を通じて、地域課題を整理し多種種と連携を図りながら課題解決に向け取り組みました。

また、各種相談に対応できるよう、業務に必要な相談技術やケアマネジメント技術の向上のため研修等に積極的に参加し、各職員が学んだ内容を伝達、共有することにより職員全体の資質向上に努めました。

□ 地域包括支援センターかたりあい

総合相談窓口として、権利擁護事業や介護予防ケアマネジメント事業に取り組むとともに、多職種協働による地域のネットワークや社会資源が有機的に連携することができるよう民生委員・児童委員や関係機関との情報交換会をはじめ環境整備の構築に努めました。

□ 地域包括支援センターなえづ

複合的な課題に対応するため、関係機関と情報共有や連携を図りながら課題解決に向け

⁵ 地域ケア会議：地域包括支援センターまたは市が主催し、設置・運営する「行政職員をはじめ、地域の関係者から構成される会議体」。個別ケースの検討を目的とした「地域ケア個別会議」、日常生活圏域における地域づくり、資源開発の検討を目的とした「地域ケアネットワーク会議」、市全体の地域づくり、資源開発や政策形成の協議を目的とした「地域ケア推進会議」、地域包括支援センター・市健康課・市社協地域福祉課の職員をメンバーとした「地域ケア推進担当者会議」で構成される。

取り組みました。また、支援をする中で把握した地域課題を地域の関係機関と共有し、地域の支援体制の整備に努めました。

□ 地域包括支援センターくしびき

複合的な課題を抱える方やその世帯に対して関係機関と包括的に関わり、解決を図るとともに、地域課題の把握と支援体制の構築に努めました。

また、櫛引福祉センターと協働で各地区との連携を強化し、支え合い活動の推進に努めました。

(2) 鶴岡市障害者相談支援センター

◆ 総括

障がい者が地域で安心して自立した生活を送ることができるよう、本人や家族への相談支援をはじめ、地域の中核的な役割を担う基幹相談支援センターとして指定相談支援事業所間の調整や同行支援、困難事例の検討会、権利擁護・障害者虐待の相談窓口、障害者理解啓発などに取り組みました。

鶴岡市自立支援協議会の各部会で課題として挙げられている事項について、会議、研修会、情報交換会等を開催し、各部門から意見をいただきながら解決に向け検討を行いました。

新型コロナウイルス感染症の対応として、各事業所間の情報収集や伝達共有など情報発信を行い、また、高齢、児童、保健・医療、教育、就労等の関係機関とのつながり、顔の見える関係性をつくるため、他機関との情報交換会を実施し、お互いの理解を深め連携強化に努めました。

◆ 重点目標に対する成果・達成

障がいの特性や地域生活課題等の多様化に応じた総合的な相談支援を行うため、関係機関が協働し課題解決に取り組めるよう情報交換会を開催しました。また、障害者相談支援センターの愛称を「にこころ」に決定し、親しみやすい愛称として定着したことにより、成人期になってからも相談しやすく、切れ目のない相談支援のきっかけの一つとなっています。

地域全体で障がい者の生活を支える体制の「地域生活支援拠点事業～つるおか安心ネット～」については、必要な方に個別に説明するほか鶴岡手をつなぐ親の会等関係団体を通して研修会を開催し、登録を推進しました。

◆ 事業の実施結果

○ 総合的、専門的な相談支援

障がいのある人やその家族の抱える課題について、医療、教育、労働などに関する専門機関との連携が図られるよう、顔の見える形で情報共有を行いました。また、障害者地域自立支援協議会の各部会合同の研修会や情報交換会を開催するとともに、専門部会でのケース

検討ではグループスーパービジョン⁶の手法が定着し人材育成につながりました。

令和4年度は、医療的ケア児等コーディネーター資格1名と、医療的ケア児等支援者資格へ2名が受講し、専門的知識をもって医療的ケア児のみならず、家族の支援にもさらに取り組んでいく体制を整えました。また、精神障害者の支援体制研修も2名受講し、体制の充実を図りました。

○ 相談しやすい体制づくり

相談しやすい体制づくりの一環として、障害者相談支援センター「にこころ」の愛称が定着しました。切れ目のない支援については学校関係との情報共有の機会を作り対応しました。障がい児者及びご家族からの一般相談のほか、地域の相談支援の中核を担う基幹相談支援センターとして、総合的・専門的な相談支援に取り組みました。

相談支援の内容では、健康・医療に関することが増加し、特に精神面での不安を抱える相談が増加しました。また、家族関係・人間関係や家計・経済の相談も増加しており、家族間で金銭問題、家族全体での支援が必要なケースが増え、解決が困難な事例については関係機関や他職種と連携を図り進めました。

<相談状況>

(単位：件)

年度	相談件数(延べ人数)			うち新規件数		
	計	障害者	障害児	計	障害者	障害児
R2	8,916	8,312	604	126	98	28
R3	9,799	9,179	620	103	85	18
R4	10,557	9,520	1,037	132	102	30

<相談方法>

(単位：件)

年度	計	訪問	来所	同行	電話	メール	個別支援会議	関係機関調整	その他
R2	13,079	2,509	640	252	3,248	77	59	6,069	225
R3	13,669	2,191	663	301	3,627	162	64	6,341	320
R4	14,255	2,030	555	247	3,093	112	31	7,557	630

<相談内容の内訳>

(単位：件)

年度	計	福祉サービス利用	障がい・病状理解	健康・医療	不安解消 情緒安定	保育・教育	家族・人間関係
R2	9,079	6,205	353	562	471	46	224
R3	10,278	6,565	704	851	646	46	293
R4	12,070	7,134	602	1,287	864	99	486

⁶ グループスーパービジョン：一人の支援者が支援をしていく中での課題について、支援者が集まり意見を出し合い、新たな、またより良い解決策及び対応方法を検討していく手法。

年度	家計・経済	生活技術	就労	社会参加	権利擁護	その他
R2	167	273	222	46	30	480
R3	175	312	279	39	48	320
R4	390	224	302	178	149	355

○ 障がいのある人の充実した生活への支援

◇ 地域生活支援拠点の整備

障がい者の重度化、高齢化、親亡き後を見据えた相談体制の拡充、体験の場の確保、緊急時の受け入れ体制等を整備する「地域生活支援拠点の整備」については、利用者登録をしてもらい、緊急時に備えられるよう、鶴岡手をつなぐ親の会、家族交流会などを通して登録を推進しました。

◇ 障がい者理解啓発・障害者アート展の開催

障害者差別解消法理解促進事業の一環として障がいを理由とする差別の解消を推進し、共生社会を実現することを目的に「花笠ほーぷ隊」による知的障がい・発達障がいの疑似体験を通しての理解啓発の研修を行いました。また、自立支援協議会のしごと部会と発達支援部会と協働し、市内の障がい者雇用を行っている企業や関心を持つ企業に参加、体験をしていただき、就労の場での障がい者理解につながりました。

4年目となった「障害者アート展」については、障がいのある方が自由に思いを表現する機会となり、来館された方も障がいのある方の表現に関心を寄せられました。また、障がいのある方の表現を輝かせたいと願う支援者の研修会も実施し、さらに、YouTube 配信により作品の紹介を行いました。

開催月日	イベント名	参加人数	内 容
9月16日 ～ 9月25日	障害者 アート展	来場者 963名	開催場所：鶴岡アートフォーラム 名称：「つるおかひょうげんの花 2022～鶴岡の障害のある人の表現活動を紹介する展示会～」 内容： ①「つるおか障害者アート展」 公募した鶴岡在住の障がいがある方の作品の展示 出品数：150点（個人・共同） ②やまがたきざしとまなざし 2022 やまがた公募展入賞作品展・企画展（同時開催） ③とあるアトリエ（仮）プロジェクト作品（同時開催） ④YouTube 配信

◇ ピアカウンセリング・家族交流会

家族交流会を開催し、緊急時の本人への支援について「鶴岡市における地域生活支援拠点」

を説明し、家族、本人などの参加者が学び、話し合う機会となりました。また、心身をリラックスしてもらえるよう、インストラクターによる健康運動を実施しました。

◇ 日中活動・余暇支援

障がいの有無に関わらず自由に利用できるサロンを開設し、障がい者の居場所支援を図りました。イベント型の土曜日サロンは利用希望がなかったため開催を中止しています。その他、オストメイト協会の相談会や手話、自閉症親の会などより利用いただきました。

<サロン実績> ※開設日：月曜～土曜日

年度	開設日数	延来所者数	イベント回数	参加延人数
R2	227日	228人	6回	1人
R3	206日	38人	—	—
R4	241日	697人	—	—

◇ 聴覚障がい者への支援

聴覚障がい者が発熱時でも安心して手話通訳を受け診察ができるように、遠隔手話通訳サービスを令和5年度から開始できるように準備を整えました。

マスク生活により、聴覚障がい者としては口形が見えないというコミュニケーションが取りにくい状況が続いている中、透明マスクを使用するなど工夫し、情報保障のため意思疎通支援事業を進めました。聴覚障がい者の方々が手話で自由に話ができる場として、手話でおしゃべり移動お茶会を行い、手話が未体験の若い聴覚障がい者の参加もあり、手話を覚え会話がひろがり楽しむ機会となりました。

手話奉仕員養成講座は、令和4年度は基礎編を開催し、参加者は関連行事に積極的に参加し手話でつながる楽しさを学びました。

<手話通訳設置事業相談対応状況>

年度	手話通訳	講師依頼	個別相談等	手話通訳者派遣調整
R2	78件	13回	153件	147件
R3	99件	12回	147件	226件
R4	61件	13回	92件	265件

<手話奉仕員養成講座開催状況>

年度	内容	回数	修了者数	備考
R2	基礎編	24回	5人	
R3	入門編	20回	—	
R4	基礎編	22回	3人	

○ 指定相談支援事業

◇ サービス等利用計画作成

サービス等利用計画作成をとおり、障がい者本人やその家族のニーズを把握し、自立の支援ができるよう努め、関係機関との連携を図り、本人や家族がその人らしく生活できるよう支援しました。また、サービスの利用状況や心身の状況、新たなニーズ等を確認するとともに、計画の見直しを行いながらその人に合った支援を計画し、さらに、関係機関とスムーズな情報共有を図れるよう体制を構築しました。

<サービス等利用計画延べ作成数> (単位：件)

年度	新規（実人数）	継続
R2	83	1,352
R3	103	1,440
R4	78	1,323

○ 障害者地域自立支援協議会

第6期障害福祉計画に基づき、地域課題等の検討を行い、障がいのある方が地域で安心して暮らすことができるよう、各部会他分野との連携強化を重視し、保健・医療・福祉・教育・就労等の関係機関との情報交換会などを開催し、グループスーパービジョンを通して個別課題の検討や研修を行いました。

<各種会議開催状況> (単位：回)

年度	運営委員会	部会長会議	部会及び部会 事務局会議	地域移行 定着委員会	個別支援 会議	事務局会議 (全体)
R2	1	0	46	0	60	4
R3	2	1	66	1	63	4
R4	1	0	65	1	31	4

◇ 運営委員会

3月開催。事業報告と1年間の課題の対応について報告しました。活動内容については委員よりご理解をいただき、課題については、運営委員会にもっとつなげて意見をもらうようアドバイスをいただきました。

◇ 個別支援会議

個別課題の解決、また、地域課題の抽出、検討を行いました。課題が多重になっているケースも多く、関係機関が協働していくことで、解決が図れるよう検討を進めました。

◇ 専門部会

4つの専門部会に部会長を置き、事務局と構成員が協働し、地域課題や課題別情報交換会・

研修会の開催、事例検討会等に取り組みました。部会での研修や検討、また様々な機関にも参加していただきつながることで、顔の見える関係性ができ、課題を共有しながら一緒に考え、今後のそれぞれの支援にも大きくプラスになりました。

<各部会取組状況>

部 会 名	内 容
相談支援部会	<p>質の高い切れ目ない相談支援の提供と、本人やご家族が安心して地域生活ができるネットワーク構築を目指し活動を行いました。</p> <p>① 相談支援専門員の人材育成 ② 他分野他領域との連携強化 ③ 地域生活を支えるための体制整備</p> <p>※事務局会議 9回 部会 9回 グループスーパービジョン 5回</p>
しごと部会	<p>障がいのある方の一般就労、定着の促進と、就労継続支援事業所の工賃向上、ネットワーク構築を目的として、公共職業安定所や特別支援学校、就労系事業所等の方で構成する部会で協議・情報交換等を行いました。</p> <p>① 就労系事業所相互の情報交換 ② 事業所職員のスキルアップ ③ 福祉事業所の企業からの認知 ④ 製品販売の機会設定</p> <p><プロジェクトチームの活動報告></p> <p>① 企業とのつながり強化 ② 学校（高校）とのつながり強化 ③ 外注受注コーディネート ④ 就労系障がい福祉サービス事業所等ガイドブックの更新</p> <p>※事務局会議 6回 部会研修会等 8回</p>
こども部会	<p>部会総会により事業報告と活動計画等について確認を行い、また、放課後等デイサービス・児童発達支援事業所職員の情報交換会を行いました。各事業所での悩みや課題、新型コロナウイルス感染症影響下での取り組みなどの情報交換を行いました。</p> <p>① 子ども版障害福祉のしおり更新 ② 児童発達支援・放課後等デイサービスガイドブックの更新 ③ 医療的ケア児支援への適切な支援に向けた連携</p> <p>※事務局会議 9回 部会研修会等 2回</p>
発達障害部会	<p>地域課題に対する具体的な行動計画をもとに課題解決に向けた検討及び活動を進めました。</p> <p>① 切れ目ない相談支援体制の強化</p>

	② 障がい理解の啓発活動 ③ 専門的人材育成 ④ 成人期のサポート ※事務局会議 6回 部会、情報交換会：5回 研修会等：7回
--	--

◇ 障がい者虐待防止の取組

障がい者の虐待に関する相談窓口として、鶴岡市と共に対処を図りました。令和4年度の研修会は、サービス事業所従事者による虐待について、全国的な事例やのぞみの園での虐待防止の取組、委員会の義務付けなどを鶴岡市内の障がい福祉サービス事業所職員を対象に研修を行いました。

日 時：令和5年1月27日

内 容：「障害福祉サービス事業所従事者による虐待について」

講 師：国立重度知的障害者総合施設のぞみの園

会 場：Zoomによるオンライン開催

人 数：26事業所 58人

◇ 広報委員会

鶴岡市障害者地域自立支援協議会の活動内容をより多くの方々へ理解していただくため「自立支援協議会だより」を発行し、地域生活支援拠点の動向や理解啓発研修会、部会報告、アート展、防災について周知しました。

(3) 鶴岡地域生活自立支援センター（生活困窮者支援事業）

◆ 総括

複雑多様化した生活課題等様々な理由から、生活困窮状態または社会的に孤独を感じている状態にある相談者に対して、その人らしい自立した生活ができるよう継続した相談者への訪問および来所相談等、伴走型支援を目指した支援を行いました。

就労準備支援事業については、関係機関との連携や地元企業等からの協力による一般就労を目指した支援と同時に、本人の状態や特性を把握した上で、他者とのコミュニケーションの機会をつくる交流会の実施等を行い生活基盤の構築を目指した支援を行いました。

◆ 重点目標に対する成果・達成

相談者が抱える課題について、相談者とともに課題の整理及び解決に向けた方向性の確認を行うとともに、関係機関と連携・協働しながら、生活基盤・つながりの再構築を目指し自立に向けた支援を行いました。また、就労による自立を目指す相談者については、就労準備支援事業等を活用し、本人の状態に応じた段階的かつ柔軟な支援を行いました。

<相談件数等 鶴岡市・三川町>

(単位：件)

年度	新規相談件数	延べ相談件数	プラン作成	増収入者数	就労者数
R2	387	3,558	38	16	49
R3	335	3,118	12	4	45
R4	187	2,359	16	5	23

<相談内容 鶴岡市・三川町>

(単位：件)

年度	相談内容内訳																合計
	病気・障がい・健康	住まい	収入・生活費	家賃・ローン	税金・公共料金	債務	仕事探し・就職	地域との関係	家族関係	ひきこもり・不登校	DV・虐待	食べるものがない	介護	教育資金・子育て	依存症	その他(ゴミ屋敷・ペット含む)	
R2	7	31	270	8	4	6	41	2	6	3	1	0	2	2	0	4	387
R3	13	33	189	8	2	8	45	0	8	7	2	3	5	0	2	10	335
R4	8	23	93	3	1	7	23	2	4	7	0	0	2	0	0	14	187

<会議・研修・事業周知活動等>

名称	目的	回数	参集、協力、配布等機関
自立相談支援調整会議	・プランの確認、評価 ・就労準備支援事業利用決定、評価	11	福祉課・健康課・ハローワーク・社協（地域福祉課・生活支援課）
三川町支援会議	・支援ケースの確認 ・情報交換	2	庄内総合支庁地域保健福祉課・三川町健康福祉課・三川町社会福祉協議会
自立相談支援の事業説明会	・事業説明 ・民生委員、関係組織との連携	4	・第3民生区民生児童委員協議会 ・ひきこもりの方の家族の会他
ひきこもり支援連携会議（健康課主催）	・ひきこもり支援	6	精神科病院・福祉課・健康課・地域包括ケア推進室・ひきこもり相談支援機関
鶴岡市要保護児童対策地域協議会実務者会議（子ども家庭支援センター主催）	・要保護児童支援	6	鶴岡管内各関係機関
庄内地域生活保護受給者等就労自立促進協議	・生活保護受給者等の就労支援	1	庄内管内各関係機関

会（鶴岡・酒田公共職業安定所）			
生活困窮者自立支援制度人材養成研修	・研修（配信）	3	全国社会福祉協議会
全国研修・ブロック研修等	・研修（配信）	6	全国関係機関他
高等学校・福祉関係機関の情報交換会	・発達障がいまたは支援を要する生徒への支援のための情報交換	1	障害者相談支援センター・高等学校他
重層的支援	・支援関係機関による役割・支援方法の明確化を図る	2	地域福祉課・地域包括ケア推進室・地域包括支援センター・子ども家庭支援センター他

□ 自立相談支援事業（くらしステーション 鶴岡市・庄内総合支庁委託）

◆ 事業の実施結果

○ アウトリーチを中心とした相談支援

本人のみならず世帯が抱える課題に対して支援を行い、生活困窮に関する要支援者が、社会的に孤立しやすく相談につながりにくいという状況を踏まえ、アウトリーチによる本人とその家族が相談しやすい環境での相談対応を心掛け、相談者だけでは解決しづらい課題に対し支援を行いました。また、就労支援のためハローワークへの同行支援・生活保護受給者等就労自立促進事業等を活用し定着就労に向けた支援を行いました。

また、普段市役所等に来所できない相談者への対応・周知活動として、地域のコミセンまつりに参加し出張相談を開催しました。

○ 生活困窮者支援を通じた地域づくり

相談者が地域の中で孤立することなく生活できるように、民生委員・児童委員、関係機関などに事業周知を行いました。また、中間的就労の場として企業の他に鶴岡市社協内の施設とも協働しながら、ネットワーク構築を行いました。

○ 新型コロナウイルス感染症拡大の影響による生活困窮への対応

新型コロナウイルス感染症による生活困窮の相談は、令和3年度からの継続相談者が多く、令和4年度の新型コロナウイルス感染症に起因する生活困窮の新規相談は減少傾向にあります。

新型コロナウイルス感染症による生活困窮者への支援としては生活福祉資金の貸付が多く、生活支援課と連携して償還についての面談等を実施し、生活状況の把握に努めました。

□ 就労準備支援事業（したくホーム 鶴岡市委託）

◆ 事業の実施結果

○ 就労準備支援の強化

就労による自立を目指す相談者について、社会との関わりへの不安の軽減や就労に適応する準備を整えるために、課題解決に向けたプログラムへの参加を促し、基礎能力の形成と意欲の向上、社会的孤立の解消を図りました。

<支援件数等>

(単位：件)

年度	新規件数	終結件数	利用者数	就労者数
R2	2	8	10	13
R3	7	10	12	8
R4	5	2	8	2

○ 社会資源とのネットワークの構築

社会と関わりながら就労について体験できる場として、地域のコミュニティセンターから協力を得て活動を実施しました。また、ハローワークからも協力をいただき就労に向けた活動ができるよう機能と役割の紹介をしてもらいながら、ネットワークの構築を行いました。就労準備支援事業のパンフレットを新しく作成して関係機関へ配布し、事業の周知を行いました。

<令和4年度 就労準備支援事業のプログラム内容>

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	なりわい部会	ががちゃの教え	なりわい部会	銀さん会	だだ集会
午後	なりわい部会	なりわい部会	なりわい部会	なりわい部会	なりわい部会

※主な実施場所は鶴岡銀座商店街鶴岡ダダ3階

※個別に週1～2日程度就労体験プログラム実施

<地域貢献活動>

銀座通り周辺の美化活動（ゴミ拾い、除草） 赤川花火大会屋外作業ボランティア

<プログラム>

なりわい部会：高島産業の工業ブラシ内職作業

ががちゃの教え：一人暮らしを想定した調理、洗濯、裁縫、掃除の実習

調理を通して相談、助け合い等のコミュニケーション練習

銀さん会：銀座通り美化活動、体力づくり

だだ集会：自分の長所や短所、コミュニケーション練習、グループワーク

模擬面接、履歴書の書き方、社会人マナー講習、挨拶の仕方、服装の準備等

その他：面談、したくホーム利用者交流会、農福連携プロジェクト事業「地域交流農園」

<就労体験>

赤川ゴルフ場除草作業（6月から10月末日までの毎週火・木曜日）

佐藤クリーニング たたみ業務等手伝い

内川藻刈り作業

第六学区コミュニティネットワーク 事務等手伝い

うどん市 食器洗浄

鶴岡市社協内各福祉センター・事業所 業務手伝い

○ 職員研修の実施

就労支援員・就労準備支援事業従事者研修、生活困窮者自立支援全国研究交流大会のリモート研修受講し、従事者としての役割、本人に合わせたメニュープログラムについて学び支援に生かしました。

4. 高齢者福祉事業

(1) 総括

介護保険の基本理念に基づき、「利用者の目指す生活、自分らしい生活」を送るための支援に努め、市民、利用者から信頼され選ばれる高齢者福祉サービスの提供に努めました。

新型コロナウイルス感染症の感染状況としては、第7波と第8波の影響により通所介護や短期入所等で職員や利用者の感染拡大により休業を余儀なくされ、休業日数延べ96日で、休業日の利用予定者数延べ1,399人、休業に伴う減収分16,597千円となりました。また、感染防止のため利用を控える利用者がいたため、利用減となりました。利用者や職員の感染防止や健康観察、家族介護者への周知を徹底するとともに、衛生用品や感染防止対策の物品等の整備を進め、安心安全な環境のもとで、サービス提供を行いました。一方、新型コロナウイルス感染症の影響により地域との交流などは十分に行うことができませんでした。

介護保険の利用状況は、令和3年度と比較すると、通所介護で延べ利用者数が前年比△6,633人、居宅介護支援は延べケアプラン作成数が△1,294件、訪問介護は延べ訪問回数△6,504回となりました。要介護の新規利用者が減少している状況で経営的にもかなり厳しい状況となりました。

事業展開については、経営基盤の強化に向けたプロジェクト会議を中心として、経営的視点に立った検討を進め、温海デイサービスセンター愛寿園のとようら老人デイサービスセンターへの統合、居宅介護支援センターたかだての居宅介護支援センターおおやまへの統合、とようら老人デイサービスセンターとくしびきデイサービスセンターの定員見直し、老人デイサービスセンターたかだてとなえづ老人デイサービスセンターの日曜日休業導入、短期入所センターはちもりのグループホーム転換、通所型サービスA⁷なえづ、ふれあい、おおやま、くしびきは、新本部事務局で実施するはつらつ元気まちトレへの集約など各事業の見直しを行いました。

また、現在鶴岡市社協では、居宅介護支援事業所を7施設、通所介護事業所8施設運営していますが、各事業所の名称を利用者や他事業所が分かりやすくするため統一しました。特に、通所介護事業では「老人」という言葉に抵抗を感じている方もいるため、多くの方が抵抗感なく利用できるよう「老人」を取り名称の変更を行うこととしました。

令和3年度に介護保険運営基準及び障がい福祉サービス運営基準の改正がありましたが、感染症や非常災害時に、継続的にサービスの提供を行うことや早期業務再開を図るための計画「事業継続計画の策定」、施設の衛生管理に努め、感染症及び食中毒の発生防止とまん延防止に取り組む「衛生管理」、利用者又はその家族等による職員に対する身体的・精神的暴力、セクシャルハラスメントやカスタマーハラスメントなどの防止に取り組む「ハラスメント対策の強化」については、運営規程へ規定し取り組むこととしました。

⁷ 通所型サービスA：高齢者が自宅での生活を続けられるよう運動やレクリエーションに取り組み、身体機能の維持・向上を図るサービスのこと。

介護職員の人財確保・育成については、介護職員初任者研修は新型コロナウイルス感染症の感染防止を徹底しながら実施しました。鶴岡市社協職員をはじめ、鶴岡市内の介護に従事する職員が働きながら福祉専門職に必要な資格を取得するとともに、介護のプロとしてスキルアップし、定着できるよう取り組みました。

第三期事業経営計画の取組については、計画の2年目として、推進作業班メンバーによる全体会議を2回、各班による会議を随時開催し、各推進作業班を中心に計画の取組を進めました。

(2) 重点事業

①「第三期 事業経営計画」の推進

重点課題ごとに、推進作業班によるこれまでの取組内容の検証や、継続して取り組む内容、また、新たな課題にも柔軟に検討し対応しました。

基本的な視点	重点課題に対する令和4年度の主な取組
1. 信頼性の高いサービスの提供	(1) 人権を尊重した良質なサービスの提供 <ul style="list-style-type: none"> ・虐待防止会議及び身体拘束適正化会議を年2回開催するとともに、研修会を行い利用者の権利擁護に取り組みました。また、虐待防止及び身体拘束適正化に関する指針を制定し、職員へ周知しました。 ・満足度調査は、令和5年度実施予定であることから令和4年度に実施方法や設問について検討しました。 (2) 安全・安心なサービス提供ができる環境づくり <ul style="list-style-type: none"> ・事業部門の事業継続計画（BCP）策定に向けて検討を行い、令和5年度全施設策定することとしました。 ・感染症対策の強化については、感染症対策委員会設置に向けて検討を行い、実施要綱を策定しました。
2. 地域に開かれた施設づくり	(3) 部門間の連携による地域における公益的な取組の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・地域における公益的取組の推進について、施設長会議で改めて周知を行い、取組の促進を図りました。 (4) 信頼を得るための積極的な情報発信 <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページを活用した情報発信の検討を行い、令和5年度ホームページの充実に向けた体制作りを行うこととしました。
3. 人財育成の推進	(5) 職位に応じた研修体系の確立 <ul style="list-style-type: none"> ・研修体系や階層別研修原案の見直しや検討を行いました。また、キャリアパス導入に向けて、推進作業班3班で研修を受講しました。

	<p>(6) 次世代を担うリーダーの育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業長クラスに必要とされるスキルを確認するため、管理職へアンケートを実施し、今後、アンケートの集約を行うこととしました。
4. 将来性・継続性を見通した事業の展開	<p>(7) 社会情勢の変化を見据えた事業展開の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経営基盤の強化に向けたプロジェクト会議を法人内に立ち上げ、プロジェクト会議を中心に通所介護事業やはちもり短期入所の見直しについて検討を行いました。 ・新本部事務局における通所型サービスAの実施方法について検討し、開所に向けた準備に取り組みました。 ・職員座談会の実施について、新型コロナウイルス感染症の感染防止のため中止としました。 <p>(8) 適正かつ効率的な経営管理の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7月、12月の事業経営会議や施設長会議で事業分析を実施し、施設経営について検討を行いました。

② 利用者の権利擁護の取組

利用者に関わる職員全員が倫理観を高めるよう、虐待防止研修や身体拘束適正化研修、接遇研修などを行い利用者の尊厳の保持と権利擁護の推進を図りました。

③ リスクマネジメント⁸の推進

介護事故のリスク把握と組織的なリスク管理、利用者の安心安全を確保するため施設ごとリスクマネジメントに取り組むとともに、リスクマネージャー養成講座を1名が受講し、組織全体のリスク管理の意識付けと事故防止の徹底に努めました。

また、事故報告書を提出するための判断基準の見直しについて検討を行い、令和4年度から新しい判断基準⁹によって事故対応と防止に取り組みました。

◆自動車事故報告

自動車事故では、施設内や訪問先での石垣や塀などへの接触による車両事故が多く発生しました。運転業務の事故防止を図るため12月に社協全部署を対象とした「安全運転研修会」を開催しました。鶴岡市社協内の事故内容の報告を行うとともに、鶴岡警察署交通課職員を講師に迎え、シミュレーターを活用してのリスク研修を行いました。研修は新型コロナウイルス感染症の感染防止を図るため、参加者を制限し、福祉施設や福祉センターなど各部署の代表者35人の参加で実施しました。

⁸ リスクマネジメント：事故の原因や要因を特定し、分析することによって事故などの回避または低減を図ること。

⁹ 新しい判断基準：これまでの事故の判断基準に不明な点があったため、山形県や鶴岡市に提出する事故報告基準に合わせることにした。例えば、改訂前は利用者が転倒し、受診に至った場合は事故報告Ⅰとして報告していたものを改訂後は受診し、治療を受けた場合に事故報告Ⅰとして報告する。

<自動車事故件数>

(単位：件)

年度	衝突 追突	接触	脱輪	破損 (車輛・物)	人身 事故	交通 違反	不明	合計
R2	4	44	0	5	0	0	14	67
R3	7	39	1	6	0	3	10	66
R4	4	33	1	10	0	0	10	58

◆介護事故報告

令和4年度から事故報告の基準を見直したことから、事故件数は167件となり、令和3年度比△133件となりました。服薬関係については、施設長会議やリスクマネジメント会議、看護師会議などで服薬マニュアルの確認を行い、職員間で共有しながら事故防止に努めました。39件発生し、令和3年度比△8件となりました。

転倒による骨折やひびなどの重大事故は令和3年度より4件増となりました。

事故については、職員一人ひとりの意識の向上に向け「気づき改善シート」（事故が起きる前に気づいた事を書き出すシート）を活用し、重大事故とならないように努めました。

<事故件数>

(単位：件)

年度	骨折・ひび	服薬関係	その他のケガ等 擦過傷・アザ等	身体以外 連絡忘れ、破損	合計
R2	15	35	39	178	267
R3	7	47	65	181	300
R4	11	39	20	97	167

④ 感染症対策の強化

新型コロナウイルス感染症などの感染症に対する理解と意識を深めるため、リスクマネジメント委員会や看護師会議を中心に研修・訓練の実施やマニュアルの確認などを行うとともに、マスクや消毒液など衛生用品の備蓄を進めました。

また、新型コロナウイルス感染症を早期確認するため、抗原検査を実施できるよう各施設の看護師が中心となって研修を行い、速やかに対応できる体制づくりを行いました。

⑤ 災害時の地域と連携した対応

災害や感染症等が発生した場合に、地域との連携・協力が大切であることから訓練の実施に当たっては地域住民の参加が得られるよう連携を図ることとしていましたが、新型コロナウイルス感染症の影響で、十分に取り組むことができませんでした。

⑥ 個別機能訓練の充実

高齢者の自立支援や重度化防止を図るため、理学療法士・作業療法士・看護師の専門職による機能訓練メニューや日々の生活に沿ったリハビリ等を通し、個別機能訓練の充実に取り組みました。

また、通所介護で行っている個別機能訓練へ科学的介護情報システム（L I F E）¹⁰の導入について検討を行いました。

⑦ 経営的視点を持った施設運営

経営の効率化・安定化が求められているため、事業経営会議や施設長会議などで各事業の経営分析を行い、経営状況を把握しながら事業展開を図りました。通所介護事業や居宅介護支援事業の統合、通所介護の定員の見直しや日曜日休業導入、短期入所のグループホーム転換、通所型サービスAの集約など各種事業の見直しを行いました。

⑧ 業務改善への取組

介護職員の人財確保や離職防止、職員が働きやすい環境を整えるため、訪問介護事業や居宅介護支援事業においてICT¹¹やAI¹²の導入について検討を行いました。

⑨ 地域交流・地域貢献の推進

これまで各施設で行ってきた環境美化活動や専門職による出前講座、サロンの開催など、地域交流・地域貢献の充実を図りながら積極的に取り組むこととしていましたが、新型コロナウイルス感染症の影響で、十分に取り組むことができませんでした。

(3) 高齢者福祉関連事業

① 通所介護事業

利用者本人が持つ力や意欲を引き出せるような支援に努め、さらに、理学療法士・作業療法士・看護師等の専門職による個別機能訓練に力を入れ、利用者の心身機能の維持又は向上に努めました。

認知症対応型通所介護事業については、地域密着型の施設として6ヵ月に一度の運営推進会議¹³を開催し、施設の状況報告のみならず、地域住民や関係機関との意見交換を行いながら地域に開かれた施設を目指しましたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため、書面による報告としました。

¹⁰ 科学的介護情報システム（L I F E）：Long-term care Information system For Evidence の頭文字をとった言葉で、データの提供とフィードバックの活用によって、P D C Aサイクルの推進とケアの質の向上を図ることを目的とした情報システムのこと。

¹¹ I C T：パソコンだけでなくスマートフォンやタブレット、スマートスピーカーなど、様々な形状のコンピュータを使った情報処理や通信技術の総称。

¹² A I：人工知能を活用したケアマネジメント支援システムで、ケアプラン作成から管理業務を支援し、業務の効率化が期待される。

¹³ 運営推進会議：定員18名以下の小規模型通所介護事業所において、利用者や利用者の家族、地域住民等をメンバーとした会議を開催し、活動状況の報告等を行う会議。

通所型サービスAについては、利用者の身体状況に応じた運動・レクリエーションなどを行い、生活機能の維持又は向上を目指しました。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、事業の休業を余儀なくされ、安定したなサービス提供を実施できない施設もありました。また、感染防止のため利用を控える利用者がいたため、利用者数も減となり厳しい経営状況となりました。

<通所介護事業実績> (暫定・障がいを除く)

年度	一般	認知症	総合事業		合計	平均 利用率
			サービスA	従前相当		
R2	49,381人	10,488人	927人	7,878人	68,674人	73.7%
R3	46,495人	9,596人	1,708人	4,381人	62,180人	67.3%
R4	42,552人	7,346人	1,675人	3,974人	55,547人	64.4%

② 訪問介護事業

利用者が住み慣れた地域の中で、自分らしい生活の楽しみを見つけながら在宅生活を維持できるよう、関係機関との連携のもときめ細やかなサービス提供に努めました。また、計画的に各種研修を受講することで、職員のスキルアップを図り専門性の高い訪問介護事業所を目指しました。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、感染防止のため利用を控える利用者がいたため、訪問回数も減となり厳しい経営状況となりました。

<訪問介護事業実績>

年度	項目	一般			総合事業(従前相当)		合計
		身体介護	身体生活	生活援助	身体含む	生活のみ	
R2	回数(回)	24,455	5,540	15,754	2,222	7,080	55,051
	割合(%)	44.4	10.1	28.6	4.0	12.9	100.0
R3	回数(回)	21,681	5,811	13,809	2,467	6,227	49,995
	割合(%)	43.4	11.6	27.6	4.9	12.5	100.0
R4	回数(回)	18,773	7,028	9,798	2,397	5,495	43,491
	割合(%)	43.2	16.2	22.5	5.5	12.6	100.0

<会員制訪問介護事業実績(いきいきヘルパー)>

年度	延べ利用人数	利用人数(実人数)	延べ利用時間
R2	17人	2人	90.5時間
R3	6人	2人	27.0時間
R4	0人	0人	0時間

③ 居宅介護支援事業

医療と介護の連携や質の高いケアマネジメントの推進が求められているため、計画的に会議や研修会を開催し職員の資質向上に努めるとともに、多職種連携のもと、日常の様々な場面で本人の潜在能力を引き出すことができるようなケアプランを作成しました。

＜ケアプラン作成数＞

(単位：件)

年度	要介護		要支援 1・2	事業対象	合計
	要介護 1・2	要介護 3・4・5			
R2	8,707	4,382	2,542	704	16,335
R3	7,823	3,880	2,605	695	15,003
R4	6,769	3,525	2,741	674	13,709

※暫定除く

④ 短期入所事業

利用者やその家族が必要とするときに、必要なサービスを適切に提供できるよう居宅介護支援事業所との緊密な連携に努めながら職員間で利用者の情報を共有し、安心して利用していただけるように努めました。

短期入所センターおおやまは、入居ユニット職員の新型コロナウイルス感染症の感染により、支援体制を整えるため、2ユニットの内1ユニット休業するなどの対応を図りました。

＜短期入所事業利用実績＞

年度	おおやま			はちもり		
	延べ利用人数	利用率	平均介護度	延べ利用人数	利用率	平均介護度
R2	8,453 人	89.1%	2.8	2,774 人	84.4%	2.6
R3	8,256 人	87.0%	2.7	3,023 人	92.0%	2.6
R4	7,518 人	79.2%	2.6	2,742 人	86.3%	2.8

⑤ 特別養護老人ホーム、グループホーム

利用者一人ひとりのこれまでの生活を理解、尊重するとともに、その人らしさを大切に、家庭的な温かい雰囲気の中で日常生活の支援を行いました。

新型コロナウイルス感染症の影響で、地域交流は十分に実施できませんでしたが、利用者には季節ごとの施設行事を通して心豊かな生活が送れるよう努めました。

令和3年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、利用者家族からはオンライン面会や窓越し面会などの協力をお願いしており、面会時には限られた時間の中で有意義に過ごすことができました。

<特別養護老人ホームおおやま> 定員 124 人

年度	延べ入居人数	入居率	平均介護度
R2	43,808 人	96.8%	4.1
R3	44,351 人	98.0%	4.0
R4	44,170 人	97.6%	4.0

<グループホームはちもり> 定員 9 人

年度	延べ入居人数	入居率	平均介護度
R2	3,218 人	98.0%	3.2
R3	3,283 人	99.9%	2.8
R4	3,263 人	99.3%	2.7

⑥ 高齢者生活福祉センター（鶴岡市委託事業）

高齢者に対して、生活支援、居住及び交流などを総合的に提供することにより、安心して健康で明るい生活を送れるよう支援しました。

<くしびき高齢者生活福祉センター> 定員 10 人

年度	延べ入居者数	入居者数（一日平均）	入居率
R2	823 人	2.3 人	22.5%
R3	1,349 人	3.7 人	37.0%
R4	727 人	2.0 人	19.9%

(4) 独自事業

① 介護職員初任者研修

令和 3 年度に引き続き、介護職員等が働きながら資格取得ができるよう講義の多くを夜間に開催しながら介護職員の養成に努めました。令和 4 年度は高校生 3 名が受講し、演習などを夏休みの期間に行いました。新型コロナウイルスの影響で、施設での実習を中止としましたが、研修期間を延長するなどの対応を行い、補講を実施することで受講生全員無事終了することができました。

<受講状況>

(単位：人)

年度	受講者数	修了者数	募集定員（内社協枠）
R2	0	0	0
R3	14 (2)	12 (2)	20 (5)
R4	11 (1)	11 (1)	20 (5)

※R2 年度は新型コロナウイルス感染防止のため中止。

② 専門職資質向上研修

新型コロナウイルス感染症の観点から、オンライン研修を活用しながら、職員一人ひとりの専門性を高めるため、専門職研修、認知症実践者研修、相談業務等の研修に積極的に派遣し、専門的ケアの資格者を増やし、サービスの質の向上に努めました。

<研修参加人数と内容>

	内 訳	参加人数	内 容
事業推進課企画	安全運転研修会	35人	表 題：「交通事故防止について」 開催日：令和4年12月6日（火） 講 師：鶴岡警察署交通課 交通係長 大瀧泰義氏
	虐待防止・身体拘束適正化研修会	37人	表 題：「身体拘束廃止・虐待防止へのアプローチ」 開催日：令和4年11月22日（火） 講 師：山形県総合コロニー希望が丘 所長 鈴木一成氏
専門職研修	通所介護	79人	表 題：「気づく力を伸ばす」 開催日：令和4年11月8日（火） 講 師：医療法人社団 優和会グループ 介護事業部 部長 田島利子氏
	居宅介護支援	35人	表 題：「災害時のケアマネジャーの役割について」 開催日：令和4年11月10日（木） 講 師：宮城県大崎市社会福祉協議会 古川地域包括支援センター 所長 齋藤靖幸氏
派遣研修	外部派遣	6人	カウンセリングゼミナール 高齢者福祉関係新任職員研修 障がい児・者福祉関係新任職員研修
	資格取得派遣	63人	認定調査員新規研修 主任介護支援専門員研修 主任介護支援専門員更新研修 介護支援専門員更新研修(専門研修課程Ⅰ) 介護支援専門員更新研修(専門研修課程Ⅱ) 認知症介護基礎研修 認知症介護実践リーダー研修 認知症介護実践者研修 認知症対応型サービス事業管理者研修

			障がい者相談支援従事者研修（新任者研修） 障がい者相談支援従事者研修（特別研修） サービス管理責任者研修（更新研修） 強度行動障がい支援者養成研修（基礎研修） 強度行動障がい支援者養成研修（実践研修）
		1人	リスクマネジャー養成講座
各施設研修 （内部・外部）	居宅介護支援	915人	法令遵守・服務規律 他法人との合同事例検討会 身体拘束と虐待
	通所介護	786人	虐待防止・身体拘束適正化 感染症予防 認知症の正しい知識と理解
	訪問介護	1,082人	チームワークの重要性 精神障がい研修 虐待防止・身体拘束適正化
	おおやま入居 （特養・短期）	523人	理念・法令遵守 感染症対策 リスクマネジメント
	はちもり （GH・短期）	33人	食中毒予防 感染対策 虐待防止・身体拘束適正化
	障がいサービス	237人	虐待防止・身体拘束適正化 支援力向上研修 強度行動障がい支援者養成研修
合計（延べ）		3,832人	

※合計（延べ）には障がい福祉サービス事業も含む。

5. 障がい者福祉事業

(1) 総括

利用者が、地域の中で安心して自立した日常生活を送ることができるように、関係機関との連携を図りながら、意思決定の支援を心掛け、利用者の望む暮らしに向けた支援と権利擁護の推進を図りました。

障害者相談支援事業所や他の事業との連携のもと、自立支援の視点を持ちながら一人ひとりのニーズに沿った個別支援を充実させ、利用者に寄り添った支援に努めました。

新型コロナウイルス感染症などの感染症については、感染防止対策の強化を図り、感染症の発生及びまん延等を防止し、利用者や家族介護者が安心して利用できるように取り組みましたが、第7波と第8波の影響により利用者や職員に感染が発生し休業を余儀なくされました。電話等で利用者の健康観察や家族からの相談に対応するなど利用者が家庭で安心して過ごすことができるように支援しました。

障がい福祉サービスの利用は、令和3年度と比較すると、就労継続支援で延べ利用者数が前年比+64人、生活介護で延べ利用者数が+67人、訪問介護は延べ訪問回数が△573回となりました。新規利用者が減少している状況で経営的にも厳しい状況となりました。良質な福祉サービスの充実を図り、利用者や家族介護者、地域住民から選ばれる施設を目指しました。

事業展開については、利用者の特性に対応するため、鶴岡市ゆうあいプラザかたぐるま本館の事業を見直し、令和5年度からかたぐるま分館を活用した生活介護事業・自立訓練（生活訓練）事業を新規に実施することとしました。

(2) 重点事業

① 障がい福祉サービスの充実

利用者一人ひとりのニーズを的確に把握して、将来を見据えた個別支援計画に基づき、施設内の職員の連携はもとより事業所を超えた他職種が連携し合い、地域の中で暮らす「本人らしい生活」を支えることに努めました。

温海グループホーム茶や町荘は、利用者が地域において共同して自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう地域行事に参加するなど地域との交流を進めるとともに、日常生活上の援助を適切に行うよう努めました。

② 利用者の権利擁護の取組

利用者に関わる職員全員が倫理観を高めるよう、障害者差別解消法や障害者虐待防止法などの制度の学習を通し、利用者の尊厳の保持と権利擁護の推進を図りました。

また、虐待防止研修や身体拘束適正化研修、接遇研修を実施するなど職員の意識向上を図りました。

③ 利用者工賃増額の取組

時代に即した製品の開発や品質の向上、ホームページを活用した商品紹介を行いながら販路の拡大等に取り組み利用者工賃の増額に努めました。

かたぐるまは、新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、生産収入は令和3年度と比較すると収入減となりました。特に食パンの販売については、新型コロナウイルス感染症の影響からイベント販売が少なくなり厳しい状況となりました。一方、新しい商品開発として塩パン、あん塩パン、ミニ食パンを製品化することができました。

もみじが丘は、新型コロナウイルス感染症の影響もありイベント時の販売へ出向くことができない状況でしたが、県や市などが主催するバザーに出展し、もみじが丘の製品を知っていただく機会を得たことにより、裁縫製品、食品共に売り上げを伸ばすことができました。また、「ANA庄内ブルーアンバサダー」との関わりから道の駅「しゃりん」で販売する商品のパッケージを利用者が制作し「ANAのふるさと納税」に掲載していただくこととなりました。

④ リスクマネジメントの推進

リスクマネジメント委員会による取組の中で、障がい福祉サービスにおける事故や苦情の分析・評価を明確にし、リスクマネジメントの共有を図るとともに、利用者自らが危険防止に対する活動に参画するなど意識の向上に努めました。

また、事故報告書を提出するための判断基準の見直しについて検討を行い、令和4年度から新しい判断基準によって事故対応と防止に取り組みました。

◆介護事故報告

令和4年度から事故報告の基準を見直したことから、事故件数は16件で令和3年度より19件減となりました。服薬関係については、施設長会議やリスクマネジメント会議、看護師会議などで服薬マニュアルの確認を行い、職員間で共有しながら事故防止に努めました。2件発生してしまいました。

<事故件数>

(単位：件)

年度	骨折・ひび	服薬関係	その他のケガ等 擦過傷・アザ等	身体以外 連絡忘れ、破損	合計
R2	4	3	9	30	46
R3	0	3	12	20	35
R4	0	2	5	9	16

⑤ 感染症対策の強化

新型コロナウイルス感染症などの感染症に対する理解と意識を深めるため、リスクマネジメント委員会や看護師会議を中心に研修の実施やマニュアルの確認などを行うとともに、マスクや消毒液など衛生用品の備蓄を進めました。

また、新型コロナウイルス感染症の発生を早期確認するため、抗原検査を実施できるよう各施設の看護師が中心となって研修を行い、速やかに対応できる体制づくりを行いました。

⑥ 災害時における地域と連携した対応

災害が発生した場合に、地域組織等との連携・協力が大切であることから、避難訓練等の実施に当たっては地域住民の参加が得られるよう連携を図ることとしていましたが、新型コロナウイルス感染症の影響で、十分な取組はできませんでしたが、感染防止に努めながら可能な限り地域との交流を図りました。

⑦ 地域交流・地域貢献の推進

地域の方々との交流や環境美化活動・イベント等への積極的な参加を通し、利用者が地域へ出ていく活動を進めると同時に、地域住民から施設に足を運んでいただく機会などをつくり、地域交流の充実を図ることとしていましたが、新型コロナウイルス感染症の影響で、十分な取組はできませんでした。

(3) 障がい者福祉関連事業

① 就労継続支援事業

利用者が生産活動やその他の活動を通し、自立した日常生活や社会生活が送れるよう就労の機会を提供するとともに、積極的に地域との関わりを深め施設から情報発信を行い、障がい者理解と協力の輪を広げました。新製品の開発や品質の向上、新たにホームページを活用した商品紹介を行いながら販路の拡大等に取り組みました。

<就労継続支援事業B型の延べ利用者数> (単位：人)

年度	かたぐるま	もみじが丘	合計
R2	6,377	4,458	10,835
R3	4,223	4,313	8,536
R4	4,552	4,048	8,600

② 在宅支援事業

利用者一人ひとりの障がい特性や個別ニーズに応じ、安心して在宅生活が送れるよう職員の資質向上に努め、支援力の向上を図りました。

特に、居宅介護・重度訪問介護事業では、訪問介護員の障がい者支援の専門性を高めるため、研修会への積極的な参加や施設実習、喀痰吸引等の専門的な資格を取得し、障がい者の在宅生活を支え信頼される事業所を目指しました。

<生活介護・自立訓練（生活訓練）の利用状況>

年度	なえづ			かたぐるま			もみじが丘		
	開設日数	延べ利用者数	平均利用者数	開設日数	延べ利用者数	平均利用者数	開設日数	延べ利用者数	平均利用者数
R2	308	2,808	9.1	311	7,159	23.0	269	1,690	6.3
R3	304	2,540	8.4	306	8,222	26.9	269	1,863	6.9
R4	255	2,244	8.8	309	8,517	27.6	269	1,931	7.2

※かたぐるま延べ利用者数に自立訓練（生活訓練）利用者含む。R4.4月から利用者無し。

※なえづ R4.4月から土日休業。

<訪問介護事業 延べ利用回数>

(単位：回)

年度	居宅介護		重度訪問	移動支援	合計
	身体介護	家事援助			
R2	10,288	5,139	1,348	96	16,871
R3	8,996	4,770	1,292	105	15,163
R4	8,568	4,655	1,289	78	14,590

<短期入所事業利用実績>

年度	おおやま		はちもり	
	延べ利用人数	平均障害度	延べ利用人数	平均障害度
R2	7人	5.0	365人	4.1
R3	43人	5.9	391人	4.3
R4	38人	5.8	362人	4.4

③ 共同生活援助事業（グループホーム）

利用者が健康で元気に過ごすことができるよう身体状況の変化に早い段階で気づくとともに、感染症予防に留意した適切な環境づくりに取り組みました。

また、温海グループホーム茶や町荘では、海岸清掃など地域行事に参加し、地域住民との交流を図りました。

<温海グループホーム茶や町荘> 定員6人（男性）

年度	延べ入居人数	入居人数（実人数）	入居率
R3	1,530人	5人	69.9%
R4	1,794人	5人	81.9%

6. 児童福祉事業

(1) 総括

児童福祉事業においては、引き続き新型コロナウイルス感染症予防対策を講じながら子育て家庭の支援を行い、子どもの健全育成を図りました。研修会や会議等については、リモートでの研修も定着したことで気軽に参加できるようになり、保育の質の向上につながりました。

保育所、児童館、放課後児童健全育成事業で行ってきた様々な事業については、これまで新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、取りやめとしたものも多くありましたが、関係機関と連携しながら事業の在り方や実施できる方法を模索し、開催できるように努めました。

また、第三期事業経営計画に基づき作成した推進シートのスケジュールを確認しながら事業所ごとに計画を進める予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の流行により思うように活動を行うことができませんでした。

(2) 保育所

保育所においては、テーマを「子どもが主体的に活動や遊びができる保育環境づくり」とし継続して取り組みました。合同の研修会の開催は見送りましたが、園ごとに1年間の取組の成果や今後の課題をまとめ、資料を回覧することでさらに学びを深めることができました。

園で実施する行事については、新型コロナウイルスの感染状況を注視しながら、保護者の参加を自粛してきた行事についても少しずつ再開することができ、保育園での子ども達の様子を見ていただく機会を設けることができました。

個別に支援を必要とする園児が増加傾向にあることから、加配職員を配置するほか関係機関との連携を密にしながら家庭の療育支援を行いました。

<園児数の推移>

(各年度末現在/単位：人)

		0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
令和3年度	くしびき保育園	18	23	24				65
	くしびき東部保育園	3	8	3	12	14	8	48
	くしびき西部保育園				26	32	30	88
	くしびき南部保育園	4	4	7	12	10	14	51
	合計	25	35	34	50	56	52	252

		0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
令和4年度	くしびき保育園	15	20	23				58
	くしびき東部保育園	7	4	8	5	11	14	49
	くしびき西部保育園				26	28	33	87
	くしびき南部保育園	8	5	3	7	11	11	45
	合計	30	29	34	38	50	58	239

(3) 子育て支援センター

くしびき子育て支援センターでは、出生数の減少や育休明けには保育園に入園するお子さんが増えたことで、特に1歳以上の利用者数が減少しました。

支援の必要な家庭やなかなか利用に繋がらない家庭については、地区担当保健師と連携を取りながら、定期的に家庭訪問を行うことにも力を入れ、安心して子どもを産み育てられる地域づくりへの貢献に努めました。

(4) 児童館

新型コロナウイルス感染症の発生状況などにより、5児童館ともに自由来館者の増減がありました。感染者数が減少していた夏休み期間には、主催事業の開催にあわせて中高生ボランティアの受け入れを行うことができました。

幼児クラブや主催行事では、人数制限を設けたり、開催日を分散するなどの感染対策を行いながら、子どもや親子、保護者同士が安心して集える居場所づくりに努めました。

合同事業については、一堂に会する内容を見直し、同日に各館で楽しめる企画を検討し開催しました。広報で広く周知したことで、初めての児童館利用に繋がったり、この機会にすべての館に出向いた方もいるなど、児童館を知っていただく機会となりました。

<児童館利用状況>

(各年度末現在/単位：人)

令和3年度		中央	大山	西部	南部	暘光	合計
	自由来館	12,057	1,610	4,323	3,994	4,319	26,303
各種行事等	1,519	567	1,459	982	1,847	6,374	
学童保育	16,849	13,544	12,127	31,239	29,530	103,289	
合計	30,425	15,721	17,909	36,215	35,696	135,966	

令和4年度		中央	大山	西部	南部	暘光	合計
	自由来館	10,949	1,045	3,645	3,481	3,507	22,627
各種行事等	1,767	247	1,037	1,346	2,096	6,493	
学童保育	13,836	11,008	13,956	31,467	30,139	100,406	
合計	26,552	12,300	18,638	36,294	35,742	129,526	

(5) 学童保育所及び放課後児童クラブ（放課後児童健全育成事業）

学童保育所及び放課後児童クラブでは、引き続き感染症対策を徹底し、児童が安心して過ごせるように支援を行いました。

児童の感染が確認された際には、地域の小学校と連携した迅速な情報発信を心掛け、学年や学級閉鎖に合わせた最小限の利用休止をお願いし、子育て家庭の支援に努めました。

令和5年2月末には鶴岡西部放課後児童クラブのクラブ室増設工事が完了し、入所希望児童増加に対する保育スペースの確保ができました。

<学童保育登録児童数の推移>

(各年度末現在/単位:人)

		令和3年度		令和4年度	
		正規登録	特定登録	正規登録	特定登録
第二学童	やまびこ楽園	41	8	30	13
	こだま楽園	42	9	38	12
	合計	83	17	68	25
大山放兒	第1はらっぱ	35	13	31	22
	第2はらっぱ	32	13	40	13
	合計	67	26	71	35
西部放兒	ひまわり1組	63	11	36	9
	ひまわり2組			36	7
	合計	63	11	72	16
第一学童	星の子	22	10	26	12
	夢の子	30	1	28	10
	空の子	34	16	32	16
	花の子	33	12	39	9
	海の子	29	13	38	10
	合計	148	52	163	57
第四学童	太陽の子1	32	14	41	17
	太陽の子2	53	13	59	12
	太陽の子2	50	16	54	23
	合計	135	43	154	52
総計		496	149	528	185

(6) 子育て広場「まんまルーム」

子育て支援の拠点施設として、保護者同士の関係づくりや育児相談、子育てに関する情報発信など、乳幼児親子を対象とした事業の充実を図りました。

鶴岡市地域子育て支援拠点事業連絡会に参加し、関係機関との連携を密にすることで、支援が必要な乳幼児親子に対する情報交換や共通理解を図ることができました。

新型コロナウイルスの感染状況により利用人数は変動しましたが、県外移動自粛などの様々な行動制限が緩和されたこともあり、里帰り出産や子どもを連れて帰省する際に施設を利用される方がより多くなりました。

7. 苦情報告

令和4年度の苦情件数は71件で、令和3年度と比較すると大幅な減となりました。これは、苦情受付の判断基準の見直し前は、利用者や家族から迎えがまだ来ない、別の方のタオルが荷物に入っていたなど電話があった場合全てを苦情として受付をしていましたが、今回の判断基準の見直しにより、相手方より、不平不満・意見・要望・サービスの改善を求める申出があった場合に苦情受付として対応するとしたことが大きな要因となりました。

令和4年度苦情解決第三者委員が関わったケースは、「通所介護」で1件ありました。これは、職員の対応と介護保険制度で対応できないことについて申出人から確認を求められたためでした。その後、苦情解決第三者委員を通して丁寧に説明を行い理解していただきました。

苦情の内容としては、令和3年度と同じように「通所介護」「障がい施設」では件数は減ったものの、衣類などを他の利用者に入れてしまう荷物の入れ間違いや送迎時間が予定より早かったり、遅かったりなどで苦情となるケースがありました。また、「居宅介護支援」ではサービス調整の変更やキャンセルを事業所に連絡が遅れたり、忘れるなどのケースがありました。

今後も引き続き「接遇マニュアル」の活用や「コンプライアンス」の意識付けに取り組み、「利用者の声」を大切にしながら質の良いサービスの提供、職員の指導や技術向上に取り組みサービスの質の向上につながるよう努めます。

< 苦情件数 >

(単位：件)

部門 年度	事務局・老セン	通所介護	訪問介護	居宅介護支援	特別養護老人ホーム	短期入所	グループホーム	障がい施設	児童館・学童保育所・保育園	地域包括支援センター	福祉センター	合計
R2	3	87	13	42	4	22	0	37	12	0	1	221
R3	0	71	19	23	2	15	1	36	15	1	0	183
R4	1	16	5	2	1	18	0	13	13	2	0	71

※R4年度苦情受付の判断基準の見直しを実施。